

EA THE EIKO ALUMNI 87

2017年4月3日発行 ©2017 発行人:栄光学園同窓会・菱沼徹臣 編集人:高橋英治 印刷所:ナガシマ印刷工房
発行元:栄光学園同窓会 〒247-0071 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875 <http://www.eikoalumni.org>

新校舎完成

一昨年9月から開始されました70周年記念事業の校舎建て替え工事は予定通り新校舎が竣工し、3月20日には卒業生らを対象としてお披露目が行われました。



(3月5日撮影)

65期生が卒業 179名が新会員に！

2017年3月1日栄光学園第65期生の卒業式が行われ、同窓会に新たに179名が加わりました。祝賀会では同窓会を代表して菱沼会長より祝辞を述べ、卒業生に「同窓会入会案内」と「EACON入門(操作手順説明並びにID、パスワード)」を配布するとともに記念品としてウッ드의シャープペンを贈呈しました。

シャープペンにMEN FOR OTHERS WITH OTHERSと同窓会ホームページのURLがプリントされています。

5月13日(土)、14日(日) 栄光祭開催

5月13日(土)、14日(日)に第70回栄光祭が開催されます。新校舎での初めての栄光祭開催です。竣工式内覧会に参加できなかった方には、新校舎を間近に見学できる良い機会になりますので、ぜひ栄光祭に足をお運びください。

〈追悼ミサ〉

栄光祭初日5月13日(土)9時30分より、学園聖堂において、この一年間に亡くなられた教職員・卒業生の追悼ミサを行います。ミサ後、聖堂隣のアロイジオ会館ホールにて、追悼した方々を偲び、茶話会も予定しています。多くの卒業生のご参列をお待ちしております。なお、平服でお出かけください。

〈同窓会定期総会のお知らせ〉

2017年5月13日12時より栄光学園アロイジオ会館において2017年度同窓会定期総会を行います。各期委員並びに支部委員の皆様のご出席をお願いいたします。昼食は用意します。

〈OBの部屋 ALUMNI〉

栄光祭開催中の両日、今年もOBの部屋ALUMNIを開きます。今年は会場が聖堂ホールに戻る予定です。お飲みもの、お菓子、サンドイッチを提供しておりますのでどうぞお寄りください。

主な目次 No.87

学園からのメッセージ	4	母校の様子、恩師の事など	16
同窓会会長挨拶	4	旧校舎の思い出	20
ホームカミングディ関連	5	同期会	22
オール栄光ゴルフコンペ報告	5	支部活動	28
栄光OBフォーラム@TOKYO2016報告	7	歴史文学散歩	34
同窓会誌移行部報告	9	同窓会イベント 手伝い募集	38

新校舎写真



校舎(北棟)へ上がる屋外階段
(右は複合校舎)



北棟を中庭側から見る



聖堂軸から中庭へ降り
る屋外階段



大講堂から見る南棟



体育館側から北棟



体育館側から南棟

学園からのメッセージ

新校舎竣工のお礼

栄光学園中学高等学校長 望月伸一郎

同窓会のみなさまのご協力とご支援を得まして、2015年9月から進められておりました、創立70周年事業の新校舎建設工事が無事終了し、本年3月15日に大成建設から新校舎の鍵の引き渡しを受けました。本当にありがとうございました。特にこの事業にご寄付いただいた卒業生の方々には、この場をかりて厚くお礼を申し上げます。

引き渡し後、今年の3月中は竣工内覧関係の各種行事を行いました。

まず17日(金)は萱場神父様(前理事長)の司式による新校舎の祝別式を行い、本校の生徒・教職員のほか、日本設計・大成建設の方々もご参列くださり、竣工したばかりの新校舎の各室は、ルルドの聖水によって祝福を受けました。

その後、生徒・保護者および近隣住民の方々への内覧会、および竣工祝賀会などを開き、20日(月)には同窓会のみなさまをお招きしての内覧会を行いました。

なお新校舎の事務室近くには、ご寄付いただいた方々の芳名板(仮)を掲示いたしております。匿名ご希望の方を除き、今年の1月末までにご寄付いただいたすべての方々のお名前が掲載してございます。ご来校のおりにご確認ください。

70周年事業へのご寄付は来年の3月末日まで受け付けておりますので、現在の芳名板はまだ仮のものです。来年3月月末までにご寄付いただいた方々のお名前も含めた最終的な芳名板(真鍮製)を、来年4月以降に作成して、同じ場所に掲示することにいたしております。ぜひよろしく願いいたします。

同窓会活動

同窓会長ご挨拶

同窓会長 菱沼徹臣 (17期)

母校70周年記念事業の新校舎建設は皆様の強力なご支援のもと順調に進み、いよいよこの新学期より供用が開始されました。同窓生による寄付総額は現在2億円を超えており、深く敬意を表するとともに、来年3月までの払込期間中、更なるご支援を賜りますようお願いする次第です。母校創立70周年及び新校舎完成に絡み、同窓会の主催または協賛するイベントも目白押しです。6月4日栄光でのOBフォーラム、8月6日の記念コンサートとパーティー、8月27日ゴルフ

大コンペと続きます。多くの同窓生の皆様のお出ましを期待しております。

5月13日と14日は、新校舎で行われる初の栄光祭です。こちらも同窓生の皆様には新校舎を体感するチャンスとなります。また、13日土曜日12時より同窓会定時総会が予定され、多くの委員の方々の出席をお待ちしております。沢山の重要懸案事項があり、また今年は役員改選時期にも当たります。是非とも皆様のご出席と積極的なご発言をよろしくお願いいたします。

「血の通う同窓会」をモットーに、今期も各期・支部活動支援の拡大継続、東京でのイベント開催の定例化、改訂した会則の実際の落とし込みなど実施してまいりました。まだまだ充分ではないものの、この4年間で幾らかは流れが変わって来たのではないかと感じております。一方、長年の検討事案については討議の深度化を図ったものの、方向性を見出すには至っていないものも多くあり、執行部としては引き続き正面から取り組んで行かねばなりません。個人情報保護の観点から見た会員名簿の取り扱い、なかなか上がらない会費納入率、将来にわたっての健全財政の維持、そして普及が思うに任せない会員専用SNSなど、どれもチャレンジングな、そして避けて通れないテーマです。

学校法人が統合され1年が経ちました。栄光学園卒業生の「DNA」の継承に心を砕きつつ、より広い視野に立ち、グローバルな立場での **Men for Others, with Others** を目指す後輩たちが続いて来ることも確信できます。躍動感にあふれ、常に新しいステージに挑戦する同窓会でありたいものです。卒業生皆さんの同窓会活動への積極的な参加を何よりも期待しております。我と思わん人は、是非とも事務局に名乗りをあげてください。宜しく願い致します。

追悼ミサのご案内

大島弘尚 (14期)

栄光祭1日目、5月13日土曜日の午前9時30分より、栄光学園聖堂にて、この1年の間に亡くなられた教職員、卒業生の皆様の追悼ミサを行います。亡くなられた教職員は、熊野忠敬先生(保健体育)、村田良夫先生(物理)、本尾 篤先生(社会)、薄田 昇先生(社会)、小俣照信先生(手話)の5人の先生方です。

亡くなられた卒業生は同窓会に連絡のあった1期から29期までの29名の方々(2017年2月末時点)です。

ご遺族と退職した教職員の方々にもご案内しており、追

悼ミサ後、隣接するアロイジオ会館ホールにて、故人を偲ぶお茶会も予定しています。

卒業生の皆様のご参列をお待ちしております。平服でお出かけ下さい。

大盛会!! 118名の同窓生らが参加 第一回「オール栄光ゴルフコンペ」

「オール栄光ゴルフコンペ」運営事務局
渋谷直人 (27期)

ホームカミングデー OBの部屋“ALUMNI”

5月13日(土)、14日(日)の両日、別棟2階の聖堂ホール(予定)で皆さまをお待ちしています。昨年は新校舎建築のため、仮設校舎の3階を学園にお借りしましたが、今年は例年の会場に戻る予定です。(急遽会場が変更になる場合がありますが、その際は別棟の入り口付近の掲示や同窓会ホームページ等でお知らせします。)

例年通り、軽食(さぼてんかつサンド)、飲み物、お茶菓子などを用意しますので、どうぞご利用ください。もちろん無料です。新校舎を歩き疲れたら、小腹が空いたら、ちょっと喉が渴いたら、是非お立ち寄りください。

今年は、同窓会の例年の活動、これまでの70周年事業のご紹介、6月4日のOBフォーラム「隈研吾塾」や8/6の70周年記念FESTA(コンサート&パーティー)のご案内など盛り沢山、お得情報満載です。

OBの部屋から情報発信!

「最近、本を出した」、「演奏会を行う」、「個展を開く」など、こんな情報を同窓生に伝えたい皆さん、どうぞOBの部屋“ALUMNI”をご利用ください。イベント情報やポスター等の掲示、チラシの配布などを承ります。(特に若年層への情報提供の場合は効果大)

なお、お申込みは同窓会会員に限らせていただきます。また、営利目的・特定の政治活動等はお断りする場合がありますのでご了承ください。お申込み、お問合せは同窓会事務局まで。

TEL/FAX 0467-44-8875

e-mail eikohigh@cityfujisawa.ne.jp

「誰だ? 雨男は」、「何も今日降らなくても・・・」、「EIKOパワーで何とか・・・」。

2016年9月4日の日曜日早朝、東京都稲城市にあるよみうりゴルフ倶楽部では、前日夜からの雨模様で、参加者の心はドンヨリしたまま、競技スタートの時間が迫っていた。

前年9月16日の同窓会コンペ懇親会の席上で、それまでのコンペを長年取り仕切ってこられた7期の高須賀氏より「来年度より若い世代に引き継ぎ、より大規模で幅広い世代の同窓会コンペへ発展させよう」との宣言がなされた。従来からのその大会は、平日に県内の名門コースで開催、結果として参加者の大半が同窓生の十期台以上の方々を中心、というものだった。年々参加者が減少していくなか、「現役でも気軽に参加できる休日開催で、多くの期の参加を促し最低でも100名超の同窓生コンペを目指す」を旗印に学園創立70周年を契機に企画しよう、との菱沼同窓会会長の呼びかけで有志による事務局が立ち上がった。

集まったメンバーは、17、20、24、26、27、30各期の面々8名、翌10月から月1回のペースで集まり、ゴルフ場の選定から参加者募集の方法、競技ルール、賞品内容、当日運営に到るまで協議を続けた。

最も心配だった参加者集めも、アラムナイ・HPでの告知、栄光祭でのピラ配り、従来からの同窓会ゴルフネットワークの伝手、部活動OB会での働きかけなど、あらゆる方法での応募呼びかけを行い、6月頃には最低目標であった100名の目処がついてきた。

実はこれらの集客の裏では、各期の同期ゴルフイベントの「とりまとめ役」に多大なる活躍をいただいた。

その結果、1期から54期までの実質三代代、さらには小泉先生、林副校長にもエントリーいただき、総勢118名もの



(オール栄光ゴルフコンペ (読売カントリークラブ))

多くの同窓生が参加する一大イベントとして開催する運びとなった。

8時12分、トップスタートの組がティーグラウンドで最初のショットの準備をしていたところ、皆の想いが天に通じたのか、それまで降り続けていた雨が奇跡的に上がったのである。

同期2名がペアになり、他の期のペアと一緒にラウンドする形式で、トータル30組の年次、世代を越えた4人組が、18ホール、5時間に亘るプレイを通じて交流を深める。クラブチャンピオン経験のあるいわゆるシングルプレイヤーからエンジョイゴルファーまで、様々なレベルのメンバーが一同に集い、共に汗を流し、共にボールを追いかけた。

最初の組が上がった後、最終組の終了までは、おおよそ2時間。全体パーティーが始まる頃には、アルコールですっかりできあがった面々も数多く、表彰式兼懇親会は開会から和気あいあい、大盛り上がりでスタートした。

30期山田氏の司会進行のもと、菱沼会長の開会の言葉に続き、同窓会元会長の2期沼田氏の乾杯のご発声、そして林副校長からの学園通信と進んでいった。そしてこの日のメインイベントである表彰式へ。

個人戦のネット部門では31期の森本義晃氏が、グロス部門では20期の小島宏氏がそれぞれ素晴らしいスコアで優勝、輝くトロフィーを授与された。



(個人戦ネット部門優勝の森本氏(31期))

また団体戦は期対抗と部対抗の二方式を採用、期対抗戦のネット部門では20期が、グロス部門では27期が栄冠を手にした。27期は今大会にあたり、14名もの精鋭を揃え、1か月前には本コースでの練習ラウンドを行うなど、並々ならぬ意気込みで臨んだ末、初代実力ナンバー1の期の榮譽を勝ち獲った。また特筆すべきは、先生と一桁期台(1、2、5、8期)の卒業生による合同チームの活躍で、何と期対抗戦のネット、グロス双方の部門でどちらも準優勝を飾り、ゴルフは体力や若さではなく、経験と実績と年の功であることを証明いただいた。

一方の部対抗戦では、一大勢力の野球部やサッカー部

をおさえ、わずか5名参加の卓球部が制したのである。今回20名以上を集めた野球部をはじめ各部の意地とプライドを賭けた、来年少の巻き返しが見られるところである。

その後、学園創立70周年事業について70周年事業募金委員会委員長である1期の徳永氏よりご説明、7期の高須賀氏による前年コンペからの橋渡しのお言葉、そして小泉先生から近況報告をいただいた。

最後に、参加メンバー全員での記念撮影を行い、次回のコンペでの再会を約束して、丸一日にわたった会はお開きとなった。



(個人戦グロス部門優勝の小島氏(20期))



(団体戦ネット優勝の20期チーム)



(団体戦グロス優勝の27期チーム)

なお次回幹事の事務局は、団体期対抗戦の優勝と5位のチームに担っていただくことになっていたので、20期と22期の方々をお願いすることになった。

来年以降も、どんな悪天候も吹っ飛ばす「EIKOパワー」で、同窓会活動における一大イベントの一つとして皆で盛り上げていきたい。

会の運営にあたり、学園をはじめ各所、各期有志の方からのご協力、多数の協賛品のご提供をいただいた。事務局を代表してこの場を借りて御礼申し上げたい。

栄光OBフォーラム@TOKYO2016報告

事業部・広報部

栄光OBフォーラムが2015年に引き続き2016年も東京で開催されました。2015年度は平日夕刻の開催でしたが、2016年度は11月6日 日曜日の開催となりました。



(「若手起業家」小沼大地氏(左)と菱沼勇介氏(右))

会場の東京ガーデンパレスには、100名を超えるOBが集い、第1部は「人を繋ぐ、社会を繋ぐ～栄光卒若手起業家の挑戦」というテーマのパネルディスカッションに、あいおいニッセイ同和損害保険副会長 鈴木久仁氏（17期）、NPO法人クロスフィールズ代表理事 小沼大地氏（49期）、株式会



(左から中丸 徹氏、望月校長、鈴木久仁氏)

社エマリコくにたち代表取締役 菱沼勇介氏（49期）、栄光学園望月伸一郎校長にご登壇いただき、モデレーターとしてテレビ朝日政治部記者 中丸 徹氏（42期）による進行のもと、若くして起業したお二人の実績や体験としての苦労された点などの貴重な話をうかがうことができました。会場では特に若手OBたちが真剣に耳を傾ける様子が目につきました。

第2部の懇親会では徳山哲平氏（46期）のマジックショーや、吉澤伸明氏（19期）によるサッカー部OB会の活動報告、花井勝三氏（12期）による野球部OB会活動報告がなされました。また、林 直人副校長による新校舎建設状況のご紹介と創立70周年事業募金委員長 徳永良輔氏（1期）からの募金活動についてのお話をいただき、懇親会は盛会の内に終了いたしました。



(徳山氏のマジックショーは望月校長と・・・)



(林副校長による新校舎建設状況のご紹介)

パネルディスカッションに登壇いただいた小沼大地さんと菱沼勇介さんにそれぞれのご感想を寄稿していただきました。

教育の現場の持つ凄みの体感

小沼大地（49期）

大変僥倖ながら、栄光OBフォーラムにて若手代表として登壇する機会を頂戴した。私自身がNPO法人を創業するに至った経緯や、事業にかける想いをお話するとともに、パネルディスカッションでは世代を超え様々なトピックで対話をさせて頂いた。

私がお伝えしたメッセージは、若い世代のOBや現役生向けには「枠にとらわれない挑戦をして欲しい」ということであり、先輩方に対しては「そうした若手の挑戦を思い切り応援して欲しい」ということだった。

正直、こうした場でお話するということが、普段より少し背伸びした気持ちでお話したつもりだった。が、高校時代の私を知る望月校長や、当時の野球部顧問であった壺岐指導部長からは、「小沼はちっとも変わらん」という感想を壇上で頂いた。曰く、向こう見ずな挑戦をする姿勢や、目上の人にも臆せず意見をぶつけるという姿勢は、高校時代から何も変わっていないそうだ。お二人には、そのことを裏付ける、私自身も覚えていないような数々の恥ずかしい高校時代のエピソードまで披露して頂いた。

二人の恩師にこうしてやり込められることを通じて、栄光学園という教育の現場がいかに生徒に対して本気であり、人の本質を見抜いた教育を実践しているかということ、身をもって体感する機会となった。

最後になったが、今回はこのような、あらゆる意味で貴重な機会を頂戴したことを、関係者の方々に改めて深く御礼申し上げたい。

栄光OBフォーラム感想

菱沼勇介（49期）

フォーラムでパネラーのコンビを組んだ小沼大地とは、栄光学園の同期で野球部にともに所属し、大学も同じ一橋に進んだ。一橋大学ではお互い不真面目な学生だったからか、あまりキャンパス内で会うことはなかったが、ラクロス部主将の浮名はいつも学生食堂などで耳にするところだった。

（このフォーラムの所感には、きっと小沼は真面目なことを書くだろうから、少し茶化してみました。）

東大でなくて一橋大という時点で、進学校的王道から外れているわけだが、さらに小沼は青年海外協力隊へ行き、私は商店街の空き店舗活用を企画するという、いわばアウトサイドな道へと逸れていった。そして、結局、若い時のアウトサイドな経験というのが、その後の人生にもものすごく影響を

与えていることは間違いない。

その意味では、「余計なこと」の多い栄光学園の学園生活というのは貴重だった。私の場合、高校時代に中学の野球部の監督代行をさせてもらった。のみならず、フィリピンに留学させてもらったり、同好会を作って雑誌を編集したり。喫茶「アロマ」の店長として2日で100万円を売り上げたこともあった。（そのことを当時の担任だった望月先生（現校長）が覚えていらっしやっただのが、フォーラムでもっとも印象的な出来事だった。）

そんな奥深さというか器の大きさが、栄光学園の教育を特徴づけているのではないかと、あらためて感じたフォーラムだった。

僕は栄光生には真面目な生き方な奴が多いなあ、と思う。不真面目なのが正解ということではないけど、こっちはなかなか面白いものですよ。

第9回OBフォーラム「隈研吾塾」のご案内

事業部

建築家隈研吾氏（21期）をはじめとして、新校舎の設計、施工にご尽力された方々をお招きしたフォーラムを開催いたします。

日程：2017年6月4日（日） 13:00開会（12:30開場）

会場：栄光学園

参加費：無料

対象者：OB、父兄、在校生、各ご友人

《第1部 フォーラム》

講演 建築家 隈研吾氏（21期）

トークセッション

《第2部 ツアー》

1グループ20人程度に分かれて見どころを巡り、詳しい説明をいただきます。

EIKO 70th Anniversary FESTA を開催します

事業部

2017年8月6日（日）は、昼から夜までお祝いのイベントを開催します。ぜひご家族、ご友人とお出かけください。

その1:栄光学園創立70周年記念コンサート

栄光学園創立70周年をお祝いする、一日限りの特別プログラムです。

栄光学園創立70周年記念管弦楽団×栄光メサイアソサ

イエティ×若手卒業生アーティストにゲストソリストを加えた特別プログラムをお楽しみください。

日程:2017年8月6日(日) 13:00開演(12:20開場)

会場:横浜みなとみらいホール 大ホール

チケット:S席2,000円、A席1,500円、B席1,000円(未就学児はご遠慮ください)

5月よりチケットぴあで発売します(Pコード324-526)

詳細は、同封のチラシをご参照ください。

その2:栄光学園創立70周年記念パーティー

EIKO 70th Anniversary FESTAを締めくくる、賑やかなパーティーです。

コンサートの余韻に浸りつつ、ホール隣に位置するホテルに場所を変えて行きます。もちろんパーティーからの参加もOKです。豪華なお食事、お飲物とともにお楽しみください。

日程:2017年8月6日(日) 17:00開演(16:30開場)

会場:横浜ベイホテル東急

チケット:大人7,000円、大学生4,000円、高校生以下2,000円、未就学児無料

5月よりチケットぴあで発売します(Pコード635-090)

(当日券は大人7,500円、大学生4,500円、高校生以下2,500円)

詳細は、同封のチラシをご参照ください。

同窓会執行部報告

総務部

2016年度活動報告と2017年度活動予定、並びに「同窓会名簿検討特別委員会」からのお願い

総務部長 青木嘉光 (10期)

(1)2016年度活動報告

総務部の2016年度は、「同窓会名簿検討特別委員会」での議論が中心の活動となったので、これについてご報告申し上げます。

前号のアラムナイでご報告の通り、8月20日の常任委員会で「同窓会名簿検討特別委員会」の設置が承認された。その後委員会を6回開催し、「印刷型名簿」を「WEB版名簿」に替える場合の問題点等につき、以下の通り議論を重ねた。

第1回特別委員会(2016年8月20日)

平成27年度に実施した、「会員全数調査(アンケート)」における、会員の名簿に関する意見の見直し。(内容詳細は前号アラムナイ)

第2回特別委員会(2016年10月22日)

EACONの「名簿機能」について、具体的に細かく検証。現在の「EACONの名簿機能」について、なぜ期待ほど利用が広がらないのか、その機能、使い勝手などについて見直し、EACONが「印刷型名簿」の最善の代替策なのか? どのような改善が必要なのかなどを議論した。

	印刷型名簿	EACONの名簿機能
良い点	一覧性に優れる(特に期別情報) レガシー感覚	検索機能の充実 情報保護の面 情報のアップデート 費用面
難点	情報の陳腐化 廃棄がしにくい 印刷費用が高い	会員のITリテラシーが違う 現状のままでは使いにくい 期別情報の一覧がしにくい

第3回特別委員会(2016年11月26日)

これらの議論を踏まえ、11月21日(月)に、現在のEACONのシステムを開発した(株)イーストゲートを訪問。「印刷型名簿」と「EACONの名簿機能」を融合した「WEB版名簿」を考えた時、「どのような対応が出来るのか?」当方の要望の申し入れを行ったことの報告。

第4回特別委員会(2016年12月17日)

(株)イーストゲート訪問後のネットでの意見交換につき、その経過を報告。

第5回特別委員会(2017年1月14日)

(株)イーストゲートの返事が出るまでの間、比較検討の材料として、EACON導入時に検討したワンネットシステム(株)からも意見を求めることとし、1月24日に、昨年リリースした会員管理システム「PalSyne」(開発:株式会社アストロ数理ホールディングス)の説明を受ける予定になったことを報告。

第6回特別委員会、常任委員会(2017年2月18日)

1月24日に行ったワンネットシステム(株)との面談の報告と、1月26日に(株)イーストゲートから受けた、昨年11月21日の申し入れ事項への回答の報告。

その後この2社の画面イメージを見ながら、今後の「WEB版名簿」について、EACON全体の見直しも含めて多角的に議論。

2月18日は、この「特別委員会」に引き続いて開催された常任委員会に於いて、これまでの経緯を説明し、委員の皆

様から色々なご意見を頂いた。その結果、「改正個人情報保護法に対応するためには、名簿のWEB化はどうしても避けては通れない」、だが「自前でWEB版名簿のソフトを作るのはコストが高すぎる。既成のソフトに修正を加え、多少の不便は許容しながら使うことになる」ということで認識の一致を見た。

その後、3月1日に(株)イーストゲートからの回答に基づき、現在のEACON画面の修正を実施した。結果的には、我々の修正申し入れの大部分を反映出来ており、比較材料として検討した”PalSyne”ともそれほど変わらない画面となっている。

今後、この2社の画面を比較しながら、出来るだけコストを抑えて、現在の「印刷型名簿」に代わりうる使い勝手の良い「WEB版名簿」を実現し、5月総会でお諮り出来るようにすることを目指して議論を続けている。

(2) 2017年度活動予定

2017年度の総務部の活動予定としては、「同窓会名簿検討特別委員会」で、今年度重ねた議論の結果をしっかりと実現に移すことを第一の課題としたい。次に、二つ目の課題として、同窓会諸活動での実働人員増強の工夫に取り組みたい。70周年記念行事などで、同窓会活動全般が活性化されつつあり、様々な局面で活動人員の不足が痛感される状況になっている。こういった悩みの解決の為、2015年度に纏めた改訂会則に定めた「幹事」への登用を増やすなどの他、実働人員を増やす工夫の検討に取り組んでいきたい。

(3) 「同窓会名簿検討特別委員会」からのお願い

最後に、会員の皆様方へのお願い。上述の通り「同窓会名簿検討特別委員会」で「WEB版名簿」の議論が進み、(株)イーストゲートから現EACON名簿機能修正要請への回答(無償)が届いた。会員の皆様には、是非一度、EACONを開いて、EACON名簿機能の修正画面をお試しいただきたい。

まず、EACONにログイン。現れた画面で、従来「会員検索」と表示されていた欄が、「会員名簿」と変わっているので、ここをクリック。条件検索がしやすいように大きくなった検索画面が表示される。そこで、「条件を指定、変更する」をクリックし、例えば同期生全員を見たければ、一期なら「1」を入力すれば、一覧表を見ることが出来る。(もし、従来の顔写真が出るようであれば、「パネル表示切替」をクリックする。)更に一覧表の氏名の上をクリックすると、EACONの従来のプロフィールの画面に跳ぶことが出来、詳しいプロフィールを見ることが可能。

その他、色々と「条件の指定、変更」をお試しいただき、ご意見、ご感想を事務局宛にお聞かせ頂けると有難い。「同

窓会名簿検討特別委員会」では、出来るだけ多くの会員の皆様に満足いただける機能を備えた「WEB版名簿」の実現を目指し、このEACONの修正に限らず、他社ソフトの比較検討も含め議論を続ける中で、会員の皆様のご意見を参考とさせていただきますので、よろしく申し上げます。

財務部

2016年度事業報告と2017年度事業計画

財務部長 近藤亮介 (45期)

2016年度事業報告

会費請求については、口座振替に移行済みの会員に対して当年度分2,500円の引き落としを実施した。また、振り込みで納入している会員については、第3グループ745名を対象に、4年分(未納がある場合には8年分)一括振り込みの郵便振替の案内を送付した。さらに、前年度までに請求した第1、第2及び第4グループのうち未納の会員2,859名にも再度納入を依頼した。

その結果、口座振替利用率は25.8%と前年と同水準であったが、会費納入率は目標の50%には届かず45.3%と、前年よりも2ポイント下落した。しかし、2016年度も引き続き経費の節減に努めており、2月末時点においては単年度収支が若干の黒字となる見込みである。

なお、期別の納入率等は以下のとおりである。概ね若くなるにしたがって納入率が低くなっており、特に40期代の平均はわずか28.9%となっている。今後、40期以降の世代が納入率28.9%に留まると仮定すると、10年後には全体の納入率は41%程度まで下がり、現在よりも100万円程度の減収となることが予想される。

期	会員数 (除逝去者)	納入人数			納入率	10期ごと 納入率
		引落	振込	合計		
001	33	0	24	24	72.7%	74.6%
002	60	0	52	52	86.7%	
003	78	0	64	64	82.1%	
004	85	0	62	62	72.9%	
005	75	0	57	57	76.0%	
006	110	0	79	79	71.8%	
007	128	0	97	97	75.8%	
008	119	43	37	80	67.2%	
009	138	65	30	95	68.8%	
010	125	54	36	90	72.0%	
011	148	59	23	82	55.4%	54.9%
012	148	63	29	92	62.2%	

013	138	49	31	80	58.0%
014	161	66	24	90	55.9%
015	154	61	23	84	54.5%
016	153	60	33	93	60.8%
017	167	61	17	78	46.7%
018	154	53	26	79	51.3%
019	166	59	22	81	48.8%
020	155	62	24	86	55.5%
021	165	70	27	97	58.8%
022	170	71	31	102	60.0%
023	172	57	22	79	45.9%
024	173	66	24	90	52.0%
025	174	61	24	85	48.9%
026	179	59	25	84	46.9%
027	177	80	23	103	58.2%
028	171	34	25	59	34.5%
029	176	62	25	87	49.4%
030	172	60	23	83	48.3%
031	176	51	23	74	42.0%
032	174	56	14	70	40.2%
033	173	59	19	78	45.1%
034	174	50	17	67	38.5%
035	182	35	15	50	27.5%
036	166	37	12	49	29.5%
037	181	39	28	67	37.0%
038	183	33	15	48	26.2%
039	163	33	20	53	32.5%
040	179	34	13	47	26.3%
041	185	33	21	54	29.2%
042	172	35	10	45	26.2%
043	185	42	14	56	30.3%
044	180	24	7	31	17.2%
045	180	33	28	61	33.9%
046	182	48	15	63	34.6%
047	170	41	12	53	31.2%
048	177	30	8	38	21.5%
049	178	18	33	51	28.7%
050	177	45	20	65	36.7%
051	182	43	7	50	27.5%
052	178	41	10	51	28.7%
053	178	39	30	69	38.8%
054	176	63	12	75	42.6%
055	183	48	15	63	34.4%
056	178	45	5	50	28.1%

50.3%

34.5%

28.9%

32.5%

057	179	25	41	66	36.9%
058	181	26	31	57	31.5%
059	180	13	46	59	32.8%
060	178	12	31	43	24.2%
061	184	0	184	184	100.0%
062	178	0	178	178	100.0%
063	177	0	177	177	100.0%
064	176	0	176	176	100.0%
合計	10,269	2,506	2,326	4,832	47.1%
8期以降合計					
	9,700	2,506	1,891	4,397	45.3%

100%

注：規定により、満75歳を超えた期(2016年度は7期まで)については会費請求を行っておらず、比較のために納入最終年度の納入人数を記載している。

2017年度事業計画

経費の節減により2016年度は若干の黒字を確保できる見込みであるものの、会費納入率の低下が予想される現状においては、納入率改善は2017年度においても最重要の課題である。そのため、会費情報のデータベースを利用して同期会、支部及びOBフォーラム等各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いし、納入率50%超を目指していく。また、会費納入方法や他の収入源の検討、各種イベントの実施や名簿のあり方等を勘案し、引き続き中長期的な視点に立ったより健全な収支モデルを検討していく。

活動サポート部

2016年度事業報告ならびに2017年度事業計画

活動サポート部長 島崎裕之（26期）

2016年度事業報告

(1) 各期活動支援

同期会開催促進に関する支援を推進した。同窓会が把握する限りでは、計14の期が同期会を開催した。このうち開催報告の投稿は8の期から行われた。また、EACON普及のための補助を引き続き行い、計8期が申請した。年代としては50歳以上の活動は活発であるのに対し、働き盛りの30～40歳代の活動の声が少ないのが現状である。

(2) 支部活動支援

現有の支部活動状況を把握し、新支部の立ち上げを促し、支援した。2016年度当初時点では、部活動のOB会が

10支部、地域のOB会が6支部、企業・業界等のOB会が12支部の合計28支部があり、同窓会の把握では、7支部で13回の活動が行われた。このうち開催報告の投稿は9支部から行われ、7支部が補助金申請を行った。その他支部認定されていない団体からも3団体より活動の報告があった。年度内に新支部の申請はなかったが、2009年に設立されている『北海道栄光会』が支部への申請を目指し、準備を行った。他に海外でも支部設立の動きが複数見られ、情報の提供に着手した。

(3) その他活動グループ支援

『母校創立70周年記念』と銘打って、9月4日によみうりゴルフ倶楽部で開催された『オール栄光ゴルフコンペ』は、前年度の3倍以上にもなる118名もの参加があり、個人賞の他期対抗、部活動対抗等の協議を実施し、大成功を収めた。

(4) 社会貢献活動

本年度も東ティモールイエズス会校への支援を行った。本年度は、学園の校舎新築によって不要になる什器備品の寄付に対する輸送費補助として活用される。

2017年度事業計画

各活動の核として活躍する人材及び世代に応じた対応方法や手法を整え、活動をサポートしていく。各期の活動と、部活動・地域・職域業界等の支部組織をコラボレーションさせるよう促し、各期・各支部等の活動を活性化させていく。

(1) 各期活動支援

各期委員の活動を促進し、各期活動への補助を行うなどして支援する。また、各期幹事とのコミュニケーションを活発化し、活動実績を同窓会に報告するよう促す。特に人脈を拡大すべき年代でありながら活動が停滞気味の『働き盛り・子育て世代(30～40歳代)』を重点的に活性化すべく策を講じる。

(2) 支部活動支援

新規支部の立ち上げ、活動の継続性が弱い支部の再活性化を図る。4月に支部登録を目指す北海道をに続き、首都圏外や海外の地域支部、また既に活動している団体の支部申請を促す。

(3) その他活動グループ支援

昨年に続き、本年8月27日(日)によみうりゴルフ倶楽部で開催される『オール栄光ゴルフコンペ』を後援する。各ネットワークを活用し、開催に向け動員等を支援する。併せて、機会を利用し、各期・支部組織活性化等にもつなげていく。

(4) 社会貢献活動支援

引き続き、東ティモールイエズス会校への支援などの社会貢献活動を行っていく。

事業部

2016年度活動報告と2017年度活動方針

事業部長 増木洋介 (30期)

2016年度は例年実施しているOBの部屋、文学歴史散歩、OBゼミ講師派遣に加え、創立70周年事業の位置づけで、昨年度に引き続き東京でOBフォーラムを開催しました。

2017年度においては、引き続き70周年記念事業としてOBフォーラム、コンサート、パーティーを計画しており、さらなる会員相互の交流活性化をはかります。

(本号5ページに詳細を掲載しています)

広報部

2016年度事業報告と2017年度事業方針

広報部長 高橋英治 (28期)

2016年度事業報告。

会報THE EIKO ALUMNI86号を2016年10月1日、87号を2017年4月3日に発行した。

同窓会ホームページは随時記事の掲載、イベントの案内等の情報発信を継続している。トップに掲載する画像として建設中の新校舎の最新の姿をお伝えするよう努めてきた。

EACONについては総務部報告にある通り改善を行いつつ継続利用している。

SNS(ソーシャル・ネットワーク・システム)による同窓会員相互の情報交換については公式な活動を開始するには至っていない。現在、自然発生的にFacebookシステム上で2つの栄光学園OBグループが存在しており、情報の受発信の様子は把握している。

2017年度事業計画

2017年10月と2018年4月に会報を発行予定。

同窓会ホームページの運営を引き続き行っていく。

EACONの運用に関してはSNSとの比較、使い分けについて同窓会員の意見をうかがうべくアンケート調査を予定している。

第34回イエズス会校同窓会連絡会議(JJHAF)に参加して

同窓会副会長 山田宏幸 (30期)

1年に1度、姉妹校の六甲学院、広島学院、上智福岡中

学高等学校との4校で開催される「イエズス会校同窓会連絡会」(JJHAF:The Japan Jesuit Highschool Alumni Federation)が、2016年11月19日(土)に広島で行われました。昨年は上智福岡での開催でしたので、通常の順番であれば2016年度の第34回JJHAFの幹事校は栄光でした。しかし、せっかくならば、本校新校舎を姉妹校同窓会役員の方々にJJHAFの機会にご覧いただければと思ったことと、広島学院が2014～15年にかけて講堂と聖堂を建て替えたことから、一昨年の上智福岡でのJJHAF会議で、2016年度第34回は広島学院で開催しようということになった訳です。本校同窓会からは菱沼会長、関根副会長、山田が出席し、4校が情報や課題を共有し意見を交換するとともに親交を深めました。

連絡会の会場は、新築のペドロ・アルペ記念講堂の2階会議室でした。一昨年の広島開催時の会場は広島駅直近のホテルだったのですが、無理なお願いで会議の前に広島学院を訪問させていただきました。その際は、まだ新講堂と新聖堂は建築中で、大型のクレーンが設置され、現場はシートで覆われている状態でしたが、2015年8月に完成し、9月5日に竣工記念式典が行われたとのこと。近隣の駅からタクシーで広島学院に向かい、学院入り口から新「ペドロ・アルペ記念講堂」に歩を進めると、真新しくシンプルで落ち着いた佇まいの建物が目に入りました。

会議に先立ち、集合時間13時の少し前から30分ほど、新講堂と新聖堂を案内していただきました。この建物の設計・監理は高垣建次郎氏(栄光16期)、ステンドグラス監修は志田政人氏で、講堂エントランスや廊下には、ペドロ・アルペ神父の画やお言葉が掲げられています。2階のメモリアルエリアには、広島学院の歴史的なオブジェやレリーフなどが飾られ、聖堂には、鮮やかなステンドグラスが施されています。さらに感動したのは、講堂のステージ奥(つまり座席から見て正面奥)の造りで、大きな木戸を全面開放出来るようになっているのですが、木戸をスライドして開けると、瀬戸内海が視界にぱっと広がる仕掛けになっているのです。入学式や卒業式などの式の最後に、この演出を用いるとのこと、薄暗い会場に一気に光が差し込み、その先には海が広がるという、すばらしいシーンが展開されるようです。学園から海が見えない栄光としては、ちょっと羨ましい感じでもあります。この雰囲気、すばらしさを紙面で伝えることは残念ながら難しいのですが、もし何かの機会に直接ご覧いただけることがありましたら、ご確認、ご堪能いただければと思います。

さて会議ですが、見学後13時30分ごろから2時間程度行われ、幹事の広島学院の司会で進行しました。会議の概要は以下の通りです。

《会議の概要》

1 日時:会議 2016年11月19日(土)13:30～15:30

(懇親会17:00～19:00頃)

2 出席者

- (1) 広島学院:会長、副会長4名、事務局次長、事務局員(懇親会、広島学院三好校長先生)
- (2) 六甲学院:会長、副会長1名、事業委員長
- (3) 上智福岡:会長、副会長1名
- (4) 栄光学園:会長、副会長2名

3 会議の概要、議事等

- (1) 広島学院翠友会の栗屋会長からご挨拶
- (2) 上智学院中等教育担当理事の李神父からご挨拶、近況報告と提案

・2017年6月ごろに上智+4校の卒業生を募る会の開催を検討している。

・同窓会のつながりをさらに強化していきたい。イエズス会校同窓会世界大会の開催。また、第2回世界フォーラムを2019年広島で開催することを計画中。

・上智大学同窓会「ソフィア会」は地区持ち回りで年1回全国大会を開催している。

・上智大学は、スーパー・グローバル・ユニバーシティとして、海外の多くの大学と提携している。姉妹校卒業生にも海外大学を紹介、斡旋していく用意あり。

・法人合併したこともあり、次回JJHAFには、ソフィア会からも来賓、オブザーバー等で参加してもらおうと良いのでは。

(3) 自己紹介後、各校同窓会の近況をそれぞれ紹介した後、議事に入った。

(4) 各議事について、意見交換、議論を行った。議事は以下の通り。

ア 会員名簿発行について

イ 会費の徴収について

ウ 東ティモール支援について

エ イエズス会校同窓会世界連盟への加盟金について

オ その他(各会周年行事祝賀会等へのお祝いについて)

各校からの近況として、六甲からは、①名簿改訂:出版済み、氏名のみ記載の簡便な形式。費用は広告等で黒字。②伯友奨学基金の設立について、が報告されました。

栄光からは、①学園創立70周年事業と募金活動について、主な事業紹介、募金活動、同窓会企画などの説明。②同窓会定例事業、検討課題の概要説明。③本会議のその他の議題で取り上げられている「各会行事参加時のお祝い等について」の素案提示、を行いました。

上智福岡からは、①同窓会60周年記念式典の報告。②男女共学になり現在女子は高校2年生となり、あと1年半ほどで同窓会に参加してくること。③定例の総会を毎年行っているが、38才になる学年が幹事、28才が副幹事をやるのが仕組みとして決まっていること、などが報告されました。

広島からは、①事業の報告として、役員総会、広報活動、名簿発行、会員交流事業の開催、地域支部の活動、職域同窓会の状況。②その他、ゴルフコンペ、JJHAFサッカー、広島に薬剤師の会、関東で医師の同窓組織化を準備していること、などが報告されました。

続いて、まずその他の、「各会行事参加時のお祝い等について」から議論を行いました。確認されたことの概要は、①姉妹校行事への参加費用は、来賓としての参加であっても、基本的には会の参加費を人数分お渡しし、お祝い金は持参しない。また開会のお知らせを姉妹校にする場合、開催校は事前に会費を明確に各校事務局へ通知し、併せて領収書を用意する。②JJHAFサッカーは、各校の事情を考慮した各校の判断が良いが、今後基本的には地理的に中間にあり、グラウンドも学園施設を借用できるということで六甲での開催が多くなると思われる。よって、各校は同窓会支部活動への補助的な位置付けと同様に対応すれば良いのではないかと整理されました。

続いて、継続課題として名簿発行について、まず広島から状況の説明が行われました。2016-2017版を、2年に1回の従来通りに12月に発行するべく準備進行中で、毎回アンケート用紙を送付して、掲載に関する調査をおこなっているとのこと。会費未納でも送付し、併せて会費の督促を行うようにしている。(今回は7,100部発行予定)また、2016年からホームページ上で更新できるように改変したため情報更新が便利になり登録更新が増加したとのことでした。(2年間で約30%の情報が更新されるとのこと。)

六甲は、紙面の名簿については期ごとの名前のみを掲載する索引的な冊子を作製し、5,600部配布しました。3年に1回の発行は変わらず、詳細のデータ取得(たとえば当該期の住所電話連絡先情報一覧等)は、事務局に依頼すれば可能にしているとのこと。個人情報保護法の改正等に係る詳細検討は今後とのこと。

上智福岡は、名簿発行は行わず、情報は事務局が保持しており、年1回発行の会報送付で内容を確認するとともに、専門会社に管理等を委託しているとのこと。

本同窓会としても、名簿については現在検討中の懸案事項であることは明らかですので、各校同窓会の動向を参考にして、検討していく必要があります。

東ティモール支援については、引き続き各校で学校と同窓会が協力するなどして50万円ずつ支援することが確認されました。

最後に、奨学金や育英基金などの話題にもなりましたが、予定の時間となってしまう、今後継続して検討することとしました。

まだまだ議論が尽きない中、開会后2時間があっという間に経過し、次回幹事が栄光であることを確認して、とりあえず会議を終了しました。会議終了後、新講堂で写真撮影

を行い、広島市街の懇親会会場に移動しました。懇親会の開始まで少し時間があつたので、私は広島翠友会の林副会長のご案内で、会場近くのエリザベト音楽大学を見学させていただきました。同大学の初代学長はイエズス会のE.ゴージェンス神父であり、また同大学は2010年に上智大学と学生交流協定を提携しているとのこと。広島学院の新講堂・新聖堂の竣工記念演奏会では、同大学の「エリザベト シンガーズ」が出演されるなど、広島学院との親交は深いようです。

さて、懇親会は、翠友会役員の皆さん御用達のお店で行われました。広島学院の三好校長先生も合流され、広島牡蠣などを堪能しつつ、さらに各校の親交を深め、議事録には掲載し難い「情報の共有」を行うなど大いに盛り上がりました。各校は所在地域が異なり、参加者は仕事も年代も違うのですが、そこはやはりイエズス会校での教育を受けた者同士、何の隔たりもなく会話は弾み、大いに盛り上がり、時を忘れるほど楽しく有意義な会でした。次回、栄光新校舎での再会を参加者全員で確認し、午後7時過ぎに散会となりました。

2016年度OBゼミ

事業部

2016年度OBゼミは26期と36期が担当し、以下に掲げる全21回のゼミを行った。

第1回 5月11日(水)

未来の航空機と日本のこれからの航空機研究開発

李家賢一氏(26期)

東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻 教授

第2回 5月18日(水)

ICカードの時代 Suica、SIMカードそしてマイナンバー

細田泰弘氏(26期)

NTTエレクトロニクス

第3回 5月25日(水)

絵画と建築・都市空間 2次元と3次元の間

伊藤恭行氏(26期)

名古屋市立大学芸術工学部、

シーラカンズ アンド アソシエイツ

第4回 6月8日(水)

地球気候の将来:今何が起き、どこまで予測できるのか?

中村 尚 氏(26期)

東京大学先端科学技術センター 気候変動科学分野

第5回 6月15日(水)

人生設計とリスク ―そしてその分散と回避―
島崎裕之氏(26期)
東急保険コンサルティング(株) 営業本部職域営業部

第6回 6月22日(水)

ヤバイ経済政策 ―政策実務と社会科学―
森川正之氏(26期)
経済産業研究所(RIETI) 理事・副所長

第7回 6月29日(水)

飲料ブランド戦略について 食品メーカーの市場へ挑戦
辻 邦夫氏(26期)
サントリーコーポレートビジネス株式会社 法人営業本部
営業推進部長

第8回 9月14日(水)

新しい地域医療の展開
中島 拓 氏(26期)
中島脳外科内科医院

第9回 9月21日(水)

日本警察の現状と課題
三浦正充氏(26期)
警察庁長官官房長

第10回 10月12日(水)

国際機関を作るはなしーアジア版IMF創設記ー
根本洋一氏(26期)
財務省 財務総合研究所(PRI)所長

第11回 10月26日(水)

(追而)
鈴木勝秀氏(26期)
脚本家・演出家

第12回 11月09日(水)

今、ロースクールが熱い！ ～ 弁護士の魅力に迫る
本郷 亮 氏(26期)
本郷綜合法律事務所弁護士 慶応大学法科大学院教授

第13回 11月16日(水)

放送局で働くということ ～特派員の仕事を中心に～
竹沢 顕 氏(26期)
NHK(日本放送協会)アナウンス室 専任局長

第14回 11月30日(水)

会社 ～ どんな所
小林寿也氏(26期)
(株)サンワケミカ 代表取締役社長

第15回 1月11日(水)

あなたも行って 同じようにしなさい (ルカ11:37)
金子道仁氏(36期)
宗教法人グッド・サマリタン・チャーチ牧師、
フリースクール光の子どもクリスチャンスクール副校長、
社会福祉法人グッド・サマリタン理事長

第16回 1月18日(水)

案ずるな。進路は、すでに君の中で芽吹きを待っている。
高鳥康一氏(36期)
NHK World News部チーフ・プロデューサー

第17回 1月25日(水)

少年院の風景
井上雅人氏(36期)
久里浜少年院、順天堂精神医学研究所

第18回 2月1日(水)

弁護士は文系？理系？
山内貴博氏(36期)
長島・大野・常松法律事務所

第19回 2月8日(水)

好きこそ物の上手なれ ～The dream is alive～
高島 健 氏(36期)
研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究
所
太陽系科学研究系 准教授
ERGプロジェクト ミッションマネージャー

第20回 2月15日(水)

組織に属さないで、好きなことをして生きるには？
土屋 敦 氏(36期)
料理研究家・書評家

第21回 2月22日(水)

籠屋(かごや)の仕事
井上克彦氏(36期)
竹細工職人

母校の様子

「学園通信」より

報告者 内山正樹 (9期)

1. 神山復生病院訪問

愛の運動委員会が希望者を募り夏休みに元ハンセン病患者の方々暮らす御殿場の神山復生病院を生徒たちが訪問しました。元患者の方々との交流や施設の歴史を学んだ吉岡怜真君(高1・67期)の感想文を紹介します。

今回初めて神山復生病院に行った。そこで僕が驚いたことはたくさんありました。一つ目はハンセン病元患者さんの数です。僕は病院には20人かそれよりも多いくらいの人がいるのだと思っていましたが、実際には6人で、しかも全員ご高齢であり、とても驚きました。後から藤原さんがおっしゃっていましたが、ハンセン病は感染力のとても弱い病気で、現在日本ではもう感染者は出てこないであろう。そんな病気であるので、もう新たに病院に来る人はいないということです。二つ目は、ハンセン病元患者さんは、多少の体の不自由がありつつも前向きに生きているということです。来る前は、昔から多くの差別を受けてきて、ネガティブな思考をしているのではないか、悩み事が多いのではないかと思っていました。しかし実際は自分にできることを見つけ、いろいろな趣味の活動をされていて、そのようなことは一切感じられず、尊敬の念を抱きました。三つ目は、この病院がいわゆる「強制収容所」のような性格を持っていないことです。この病院は私立で、国からのお金もなく、生活環境は他の施設と比べると厳しいものだったそうです。しかしこの病院は他と違って地域から隔離されているわけでもなく、地域からの差別もありませんでした。そのため多くの人がこの病院に来たそうです。

このように僕が考えていたことと実際は大きく違っていた点がいくつもありました。来年はこのような病院訪問はできないかもしれませんが、今回の病院訪問はとて素晴らしい経験になったと思います。

2. 関東高校将棋リーグ戦2連覇達成

囲碁将棋部は関東高校将棋リーグA級で2連覇を達成しました。森本賢志郎君(高2・66期)のレポートを紹介します。

僕は、8月12日に行われた関東高校将棋リーグ戦に参加しました。この大会は5人1組で戦う団体戦です。栄光学園はその中でも最上位のA級に属しています。A級グループ参加校は栄光、桐朋、開成、日大三島、浅野、武蔵で、この6チームでリーグ戦を競いました。

僕はこの大会に栄光学園の二連覇を賭けて臨みました。

一回戦 武蔵 5-0で圧倒的勝利！

二回戦 浅野 4-1で勝利！！

三回戦 不戦勝！！！

四回戦 開成 3-2で勝利！！！！

五回戦 桐朋 3-2で勝利！！！！！！

という、素晴らしい結果でした。

この中で印象に残っているのは、四回戦であたった開成との試合です。

開成は、去年のリーグ戦で唯一負けてしまった学校ということもあり、今大会の中でも一番大変な勝負になると思っていました。

実際、開成との試合はギリギリの勝負になりました。

自分の勝ちが決まった時点で2-1。次に終わった対局は惜しくも負けてしまい、開成との勝敗は、最後の対局にもつれ込みました。一進一退の攻防を繰り返す白熱した対局となりましたが、なんとか勝つことができました。結果、3-2で開成に勝利し、去年の借りを返すことができました。そして、最終戦(桐朋戦)の結果を待たずして優勝を確定させることができました。

今年は、全ての学校に勝利して、この大会での連覇を果たすことができ、とても満足のいく結果となりました。

最後に引率して下さった石川先生、いつも応援してくださっている先輩方に感謝いたします。ありがとうございました。

3. 「科学の甲子園」県大会6連覇、ジュニア2連覇

次世代人材育成事業として科学技術振興機構が主催する「科学の甲子園」全国大会の神奈川県大会で、高校生が6連覇を達成しました。学園通信の記事を転載します。

「科学の甲子園」全国大会への予選を兼ねた神奈川県大会が、29チームが参加して行われた。11月3日(祝)の筆記競技、2016年11月6日(日)の2つの実技競技の結果、栄光学園Aチームが総合1位、Bチームも総合2位となり、6年連続6度目の全国大会への切符を手にした。

筆記競技は理科・数学・情報の各分野からの出題で、6~8人のチーム全員で一斉に取り組む。Aチームは抜群の安定性でこの部門1位を獲得、Bチームは生物分野を得意とする選手を欠くも、大量失点を何とか抑えた。

実技競技の1つは、1チーム3~4人参加の生物シミュレーション実験。内容は非公表なので紹介できないが、上位チームには結果の差がつかない厳しい展開。栄光2チームは無難に課題をこなし、勝敗の行方は最後の実技競技へ。

最後の実技競技は、既定の材料で作られた車をあらかじめ製作しておき、坂道を転がした後、当日発表される距離で自動的に停止させ、その正確性を競うもの。午前中1時間の試走で最終調整し、午後の本番2レースへ。昼休みをはさんで湿度などの条件が変わってしまったようで、1レース目は多くのチームが軒並み1メートル以上の距離オーバー。

試走のできない、感覚勝負の調整を経た2レース目では、Aチームは17センチ差、Bチームは1位タイの4センチ差という驚異のリカバリーを見せた。

全国大会は来年3月17日(金)～20日(月)に行われる。一部競技はUSTREAMなどで実況生中継される予定。

「科学の甲子園」の中学生版である「ジュニア」神奈川大会においても2連覇を達成しました、2位の桐蔭学園との合同チームで県代表として12月に行われた全国大会に出場しましたが、結果は47チーム中21位でした。

4. 体験授業「共に生きる」

中2(69期)の倫理科特別授業で「共に生きる」をテーマに各種講座が実施されました。「認知症サポーター養成講座」に参加した椿道智君のレポートを紹介します。

認知症サポーター養成講座で、一番大切だと分かったのは「認知症の人」に合わせてあげる、ということでした。それは、僕たち認知症でない人は大抵のことを記憶しているため起きたことが「事実」であり、一方、認知症の人は一部の記憶が欠けているため、起きたこと全てを事実として認知できない。だから、自分と思っていることが違うのは当然で、無理に自分の考えを強制することが適切ではないことは考えてみればあたりまえな気がする。

講座では若くしてアルツハイマーになってしまった人のメッセージが上映され、認知症というのは“若いから大丈夫”ではなく、常に自分が発症する可能性があり、関心を持つべきだと思った。また、関心を持つことで認知症の人をより深く理解できるのではないかとも思う。

僕の祖母は昨年5月に脳出血を発症して以来、生活が一変し歩くことも出来なくなり、認知症にもなってしまった。今では祖母は僕が「孫」であることすら分からなくなりつつありますが、祖母が「近所の人」だと勘違いしたとしても、誰だと思われても否定せずに合わせることも大切かもしれません。今まで祖母に優しくサポートしてきたつもりでしたが、「認知症の人がどのように思っているか」ということを学ぶと、自分のそのサポートの「形」も考え直すべきだと思いました。

身近に認知症の人が居る一人として、講座を受けて良かったと思いました。

5. 2学期終業式

2学期から新校舎の一部使用が始まっていますが、終業式での望月校長の講話を抜粋して紹介します。

仮設校舎に移って一年あまりが過ぎ、新しい校舎の姿がしだいにはっきりと現れてくるようになりました。今は、聖堂軸

といいますが、新校舎の北棟と南棟とをつなぐ渡り廊下のような機能を果たす部分の建築が進み、毎日少しずつ、形ができてきています。たとえ2階建てといっても、校舎と校舎とが廊下でつながっていなければ、2階から2階へ移ろうとしても、一度階段をおりてまた上がるのですから、移動距離が長くなります。

今年一年を振り返ると、例えば建物と建物をつなぐ渡り廊下のように、架け橋になってつなぐということが、とても大切なことだとあらためて認識された年だったのではないかと思います。

さて、先月の25日に興味あるニュースが新聞に出ていました。みなさんも知っているかもしれませんが。ロボットは東京大学の入学試験に合格することができるか。そんなテーマで、国立情報学研究所が人工知能(AI)の開発研究をはじめて5年がたちましたが、先月の報道によると、そのプロジェクト自体が取りやめになったということです。そのロボットの名前は東大合格のためのロボットなので、東ロボくんといいます。東ロボ君は開発から10年後の2021年の東大合格をめざしていたそうですが、まだその期限まであと5年もあるのに、合格は無理だとしてとりやめられたのだそうです。確かに、AIですから暗記力や計算力は抜群で、数学などは模擬試験で偏差値78くらいまでとれたそうです。つまり論理と統計と確率はわかるのです。ですから、皆さんもご存じのように、東大合格以外でも、AIはチェスや囲碁でプロに勝てるくらいにまでなりました。でもAIは論理と統計と確率はわかって、文章の読解力がとても弱く記述力も弱い。つまり、読み取るということと、相手に伝わるように表現するということが苦手なのです。

意味を理解する、ということは、あることとあることとの繋がりがつく、ということですね。「わかった」という瞬間は、あることとあることの意味が「つながった」という瞬間でもあります。意味を理解するとは、例えば、なぜ彼がああときにあんなことを言ったのか、こんな行動をしたのかが、つながったということですね。物事と物事の間に関わりがつかないということは、ことばをかえれば、架け橋がかかる、あるいは架け橋をかけるということです。架け橋の反対は壁です。二つの間に壁を設けて、繋がりをたつことです。

ある人が、国境線沿いに長い壁を設けようとしています。そのことについて尋ねられたカトリック教会のローマ法王フランシスコは「どこにであれ、壁を作ることを考え、架け橋を作ろうとしない人はキリスト教徒ではない」と言ったと報道されました。

架け橋をかけるということは、物事と物事のあいだに関わりがつかないということ、すなわち相手を理解する、ということです。法王フランシスコは架け橋を作ってお互いに理解し合うことの大切さを語っていたのだと思いました。

私たちは壁を作るためではなく、架け橋をかけるためにこの学校で学んでいるのです。それが世界のイエズス会学校で言われているmen for othersということです。今年一年を終えるにあたり、みなさんにぜひ、そのことを考えてもらいたいと思いました。

栄光親父たちの青春 (父親のための聖書研究会活動報告)

島崎裕之 (26期)

息子(66K)が高二の今年度は私が父親聖研の代表幹事となり、冊子のアラムナイ発行の頃は役割を全うしていることであろう。4人の幹事団の中、一人は長崎に単身赴任中、昨夏から私も札幌に単身赴任となったが、チームワークと会員全員の協力のもと一年を乗り切った。

今年度より法人合併により、萱場神父が学園を離れ、上智学院の監事に就任されたが、引き続き母校チャプレンとして聖堂における行事、月1度の聖研の講師も続けていただいている。この1年の活動の様子を報告させていただきたい。

1. 栄光祭(5月14日～15日)出店

今回も萱場神父・日野俊一郎先生のご尽力により、今回『カリタス釜石』より『さんりくわかめっ!』、その他グッズを販売させていただいた。また栄光祭の後逝去された加藤旭君のファーストアルバム『光のこうしん』も行商を行いながら販売した。昨年半日で売り切れた『さんりくわかめっ!』は、仕入れを大幅に増やしたが、今回は昨年のような校門前の恵まれた場所ではなく仮設校舎内、返品の効かない商品に不安もあったが、1日で完売! 二日目は前年の釜石ボランティアで一緒させていただいた山下清美さん(27K菅沼氏の妹さん、清泉OB)にも応援いただき、前年を超える売り上げ。



(栄光祭にて)

東日本大震災復興支援のために寄付させていただいた。

ヘトヘトになりながらも打上の美酒は前年にも増して美味かった。

2. 第3回釜石ボランティア(7月16日～17日)

昨年に続き4名参加。仮設住宅の入居者との会話、カラオケと、和やかなひとときを過ごした。復興は着々と進んでいるが、私たちが見ることのできないところに心の傷を負った被災者が多くいらっしゃる事が考えられ、ボランティアの限界を感じさせるものでもあった。

通常期は引き続き『聖園(ミソ)子供の家』での子供たちとの交流を続けている。

3. 第3回『栄光ヒュッテ』合宿(9月10日～13日)

昨年とほぼ同じ16名の参加。今回は私を含めOB親父も3名参加した。

天気にも恵まれ、断水もなく一番のコンディションでのスタートとなった。中一(70K)のお父様も多く参加し、夜中まで



(栄光ヒュッテ合宿)

語り明かした。

4. 体育祭(10月2日)『綱引き』

今回は雨天順延、日曜の開催となった。これまでの3回は2勝1敗。ピンクのTシャツで参戦、結果は僅差で勝利! 生の様子は学園のFacebookページにもアップされている。祝勝会も大いに盛り上がり、翌日一番の飛行機で千歳に向かった私は、どうやって札幌まで帰ったのか記憶がない

5. 黙想会

今年は例年で最も多い16名の参加。今年のテーマは『私のプロフィール』。聖書を読み、個室で祈りをささげて黙想に専念する。自分を見つめなおす24時間である。

会場は十二所のイエズス会黙想の家。40年前の恩師シルゴ神父にもお会いした。

6. 母親たち

母親の聖書研究会である『金曜会』、信者の親のグルー

プである『すみれ会』、ボランティアを中心とした『たんぼぼの会』等、妻も参加しているが、父親よりはかなり真面目に活動しているようだ。

7. 今後へ向けて

聖書研究会を始めて5年、幹事団に入り3年。今年からは一会員として活動を継続するが、パワフルな幹事団・会員が支える聖研を、今後とも見守っていきたい。

薄田先生の思い出

大島弘尚（14期）

14期生が中1の時、イエズス会中間期生として社会科の地理を教えられた薄田昇先生が今年1月14日87歳で亡くなりました。右下の写真は一昨年、東京・上石神井の高齢のイエズス会士施設「ロヨラハウス」を訪れた際にハーモニカを演奏して下さった時の姿です。

中間期生は、イエズス会の神父になる養成期間中、修練期・哲学期と神学期の中間の1~2年間、栄光などイエズス会の学校や施設での実習生です。田浦時代の栄光には、外国人も含めて数人の中間期生が毎年交代で派遣されていました。中間期生が、授業を担当することは稀で、生徒指導・掃除当番監督などを行っていました。後日聞いたところによると、夏休み中に社会科の眞眞先生が亡くなり社会科の授業担当変更により、2学期から突然中1の2クラスの担当となり、薄田先生はたいへん戸惑い、授業準備にも苦労したそうです。私には先生の地理の授業より、独特の言い方や厳しい生徒指導が思い出として残っています。

20期代前半までの卒業生は覚えていると思いますが、当時全校生徒は授業の間の休み時間、時間当番以外は全員校庭に出て、授業開始のベルとともに直立、ベルが鳴り終わってからクラス毎に整列し各教室に入っていました。この整列・入室を交代で指導するのが中間期の先生の仕事でした。薄田先生は、中1の4クラスの前に立たれ、にこやかな顔で監督・指導されていました。

私が覚えているのは先生の厳しい掃除監督です。現在でも栄光で続いています。トイレ掃除は交代で生徒が行います。当時は教室以外の掃除は特別掃除として中間期の先生方が監督していました。ある日、私の班のトイレ掃除監督にいらした薄田先生は我々の清掃が不十分と思われ、便器の隅を素手でこすりはじめました。田浦時代のトイレは海軍時代からものと思われ、当時としては珍しく水洗式になっていましたが、便器を素手で清掃される範をしめされる姿は強烈な印象でした。

栄光学園が田浦から大船な移転した時に、記念として発

刊された「若き栄光」に、栄光時代に叩き込まれたこのトイレ掃除の習慣を社会人にもなっても続け、役立ったとする卒業生の投稿が残っています。ある先輩医師は、経営なさっている診療所のトイレは今でも自ら清掃なさっているそうです。

薄田先生は栄光を去られた後、神学を修め、1964年に神父になられ、各地のイエズス会の運営する教会（小教区）に勤められました。十数年後四谷の麴町（イグナチオ）教会の主任神父としてお会いした折には、我々十四期のことはよく覚えていてくださいました。ある先輩から、ネパールの障害児施設を建設した大木神父を明日から訪れるが、持参したいミサ用ワインを今夜どこかで手に入れられないかと私に問い合わせがありました。大木神父はネパールのイエズス会学校からボカラに移ればかりで、信徒もいないためミサ用ワインにも事欠くと「ボカラ通信」に書かれていました。そのことを薄田神父に伝えるとすぐに準備室（香部屋）からワイン2本をくださり、先輩から大木神父に届けることができました。栄光学園での師弟、期を越えたつながりを体験しました。

薄田神父は1982年より大阪釜ヶ崎の労働者施設「旅路の里」の責任者になられました。私が薄田神父を訪ねた時は、西成警察と労働者の対立が表面化したいわゆる「西成暴動」の最中でした。神父様はわざわざ近隣の駅まで迎え来てくださり、西成（あいりん）地区を案内し、夜回りに同行、「旅路の里」にも宿泊させていただきました。その後、栄光の教員でいらした久我神父が始めた、栄光生参加の釜ヶ崎ボランティア活動は現在も続いています。

「旅路の里」を引退後、沖縄の石垣教会に勤められていた時も、14期の1人か訪ねてきてくれたとうれしそう話していました。神父様は、最初の教え子ともいえる、14期生を何時までもいつくしみ、祈ってくださったとおもいます。



（アルカラ先生のお誕生日のお祝いに、大島先生の後ろでハーモニカを演奏される薄田先生）

旧校舎の思い出

14期と大船移転

高垣洋太郎（14期）

横須賀から大船へ移転した時、私たち14期は高校2年生であった。皆が総動員されて、前川充留君が中心となって引っ越しに関わった。経済記者の父親が、「よくまあ、あれだけの広大な土地を手にした」と、G. フォス校長の手腕に感心していたが、東京オリンピックの年でもあり、建築費も相当高騰して、財務的にかなりの背伸びの状況であった筈である。今時、引っ越しは業者に委託するであろうが、当時は、自前が当然の時代でもあった。横須賀で教室から机をトラックに乗せ、大船でトラックから下ろす。今でも、夏の日照りに麦わら帽子と手ぬぐいでほっかむりして、皆が黙々と作業していたシーンが思い出される。

1963年に清泉が移転し、翌年栄光が移転した。突然、山が削られて校舎が建った。工事用の道路は裏からで、大船駅からは、泥の山道を登ったり下ったり、駅から学校まで結構大変であった。清泉の学生は別の通学路であった筈だが、同じ山道を歩いた学生もいて、ぬかるみを革靴が滑り、見るからに気の毒であった。移転後も、工事が完了していたわけではない。グラウンドも、スポーツをする状況になく、サッカー一部は、13期が高2の時全国大会に行ったが、練習場に不自由な14期は、県下トップを続けることが出来なかった。

私達の高3の4月は、大船校舎の学年新学期の最初である。なんと、高3A組の副級長に指名されてしまった。(当時、各クラスの正副級長は、学校の指名で決まった。)それまでは、高3A組の正副級長は、学年成績一、二番の定石である。そこに、成績真中辺の私が指名されたのである。気がついた時には、級長会議の副議長で、緑化委員会を立ち上げる事になっていた。下級生を集めて、放課後、竹中工務店がやり残した建築の跡片付けをしたり、生徒の小遣いを集めて苗を購入して、植えてまわったりしたものである。今し思えば、立ち入り禁止も無視して新校舎を探索した度胸や、16期の弟の旧友とも仲が良かった等で、目を付けられたのであろう。しかし、この時、人を束ねる良い訓練をさせてもらった。作業の後の三三七拍子が慣例となったが、音頭を取るの痛快であった。以来、何かとこの閉めの慣習を続けている。

高3は、暮れになると、学校を早くに退散する。私は、下級生と作業しながら、受験勉強に集中する同級生達を見ていて、心穏やかでは無かった。数学高難度の大学を志望していたが、故見山先生(数学)に無理だと言われ、安全牌に進路を変更した。自分より成績上位で受験に専念した連中に多く浪人が出たのは皮肉であったが、この時の化学生物系への転身が、後に在米13年、上司のノーベル賞に貢献でき、帰国後、生物学の故浅野CHONS先生に褒められた。

人生って、結構、予定外に変換する。後輩諸君、人生は「棚からぼた餅(運)」である。だが、運はいつ来るかわからない。落ちるところにいないと拾えず、臨機応変に拾うのも能力だ。それには、故フォス校長が毎日言っていた「やるべき時に、やるべき事を、しっかりやる」と言う鍛錬が、「何をやるべきか」を問うことを含めて、日々の生活の根本であり、これが栄光精神だ。

振り返って、高3の時のチャレンジは、得難い成長の機会であり、幸運であった。

旧大船校舎への思い出つらつら

三橋敏順（54期）

新校舎が竣工されると聞いて、私達の中で青天の霹靂といますか、時代の流れを感じています。名門栄光学園の基礎を作られた大先輩方にとって、<旧校舎>とは田浦校舎のことでしょうか、私達にとっての<母校>は、大船の、古い、それは古い校舎でした。各期の先輩方に負けず、私達54期の旧校舎への想いは、強いです。しかし耐震などの問題もありますし、時代の流れでありましょう。伝統は守りつつ、改めるべきは改め、これからも日本最高の教育を施していただければ、と思っています。

思い起こせば、剥がれかけのタイル、冷房なし。あるのはただ、教室、雄大なグラウンド、先生、そして生徒のみでした。旧校舎の空気を吸いながら受けた恩師の先生方の授業は、どれも印象深いですが、もっとも印象に残っている授業は、中1の倫理でしょうか。

私は、多くの栄光生と同様、地元の公立小学校出身ですが、そこで人の道を解く授業は「道徳」と呼ばれていました。しかし、関根悦雄校長は、「栄光学園では、道徳ではなく、<倫理>を教えます」と仰いました。そして、かの有名なマタイによる福音書25章の<タラントンのたとえ>の講義へとつながったのです。「ああ、僕は日本最高の中学校に進学したのだな」と、中学1年生当時の私は、感慨に耽ったものでした。

また、倫理といえば、久我先生の授業も懐かしいです。先生の出された最初の宿題は、<所与>という語彙を、辞書で調べよ、というものでした。結局、そのシンプルな(そして本質的な)宿題をこなしてきたのはクラスで私一人。久我先生に褒めていただいたのを覚えています。私は一度目の大学時代に、神を呪うような挫折を経験し、ニーチェに傾倒した時期がありましたが、ニーチェの神に対する<完全なる敗北>を悟らせてくれたのは、その久我先生の授業の記憶でした。天才が、天から与った才能を用いて、神に挑んでも、敗北するのは、自明でした。私は栄光の<倫理>に救われたこと

になります。

ところで、中間体操も懐かしいです。1限と2限の間、野球部顧問、日本史教師の老岐太先生に叱咤されながら、「寒みい〜！」などと叫びながら、グラウンドに出、いざ体を動かしてみると、その気持ち良さに気づき、フレッシュな頭でその後の授業に臨むことができました。大先輩・養老孟司先生の御著作の内容とも重複いたしますが、勉強を<身体化>することの大切さを、私達54期は、旧校舎から学んだと思っています。

昔から、大学進学実績がどうの、神奈川御三家がどうの、と雑誌等でよく取り上げられますが、私達は進学校であると同時に<神学校>でもあるのですから、悠然と、焦らず、受験という土俵には片足を突っ込む程度で、伝家の宝刀である一本筋の通った教育を、可愛い後輩達に施して下さい、と願っております。

私事で、栄光からは若干離れますが、同じミッション系で、ラ・サール高校出身の父の言葉を思い出します。

「子供は、遊ばせよ。遊ぶように、のびのびと、勉強させよ。」

新校舎でも、のびのびと、遊ぶように、勉強して欲しいと、後輩たちには願っています。

旧校舎の思い出 ー真夏の夜の丘の上ー

木戸悠介（64期）

絶叫系のアクティビティは大の苦手である。お化け屋敷など言語道断。だいたいわざと驚かされに行きたくて脈を急上昇させるなど、日々正常な拍動を維持し続けてくれている心臓に対して失礼極まりない話だ。

しかし、である。驚かす方となれば事は大きく変わってくる。

—— 旧校舎最後の夏。高校生活最後の夏。みんなでもだめしをやろう。

話はすぐにまとまった。



(準備万端)

小講堂の中から悲鳴ともうめき声ともつかない音が時々聞こえてくる。客として集まった60人ほどの同期がホラー映画を鑑賞している間、僕らは校舎を駆け回って準備を進めた。ほこりっぽい床に張り付くようにスタンバイし、真っ暗な廊下に無人

カメラをセットし、半世紀分のニオイが染みついたトイレには生きているゴキブリを何匹も放した。一体誰がこんなに恐ろ

しいことを思いつくのだろう。

「これ血のりね〜。こっちは服をズタズタにするはさみと、ソーイングセット。あ、そうそう。あたし特殊メイクって1回やってみたかったのよ。頬骨の辺りに銃弾が貫通するイメージでいいかしら？」

人が変わったように饒舌で、時々薄笑いを浮かべる司書さんの横顔は、本当に怖かった。

夜7時過ぎ、最初の客が校舎内に入る時間だ。僕が担当する1階の教室はコースの終盤にあり、僕は窓の外に潜んでいるため彼らの足音や話し声に気付かないと仕事ができない。しかし、いくら待っても誰も来ない。同じ教室で別の役割を担う友人が室内に偵察にいった。直後に叫び声が聞こえた。助けには行かない。怖くてできません、そんなこと。

ほどなく彼は戻ってきた。もうどちらが客かわからない。それからは夢中になってやって来る人を驚かし続けた。客が指示書を手にしようと窓辺に近づいた瞬間、僕が持っているロープを離すことで西洋人形が客の眼前を通過し、指示書に手を伸ばすとその手を友人が掴んで、逃げようとする客を廊下まで追いかけるといった趣向である。

9時近くになり、ようやく最後の客が会場をあとにした。その夜は異常なほどの蒸し暑さで、小高い丘の上といっても涼風などは全く感じられなかった。緊張感と安堵感と高揚感と達成感で、僕らは汗まみれになっていた。

翌日、人形を回収しに行った。教室の床にぼとりと落ちている人形は、体の傾きによって目が開閉するというぞろぞろしい仕掛けがついている。僕は瞳を見ないようにしながら人形を急いでかばんにしまい、家に帰って仏壇に手を合わせた。お釈迦様が西洋人形にいかなる慰めを施してくれるのか甚だ疑問ではあったが、とにかく祈った。だって人形を天井から吊りさ……

—— 吊り下げるために使ったロープがない！

当日帰るときには人形は吊られたままだったし、一晩の間にあのほつれたロープをわざわざ誰かが盗むとは考えられない。

新学期になり、旧校舎に確かめに行こうとした。でも、立ち入り禁止のロープがそれを許さなかった。

真夏の夜にこの丘の上で起きた不思議な出来事の真相は、旧校舎だけが、知っている。



(仕掛けられた人形)

同期の活動

14期、24期、34期、44期、54期、64期の諸君へ 同期会 十年ちがうと どう違う ……四期生 同期会報告……

鈴木宙明（4期）

この三月に大船の旧校舎から巣立った最後の期は64期。私たち4期生が学んだのは田浦の校舎、卒業したのは1956年、経済白書が「もはや戦後ではない」と記述した年、60年前でした。その後の世代を10年ずつ区切っても早や6世代、栄光の同窓会も《期》を重ねたものです。親や子が、兄や弟が、ことによると祖父や孫が、共に《栄光出だ》というご家族も少なくないようです。しかし、傘寿を越えた1～4期生あたりでも、まだ半数以上がご存命です。栄光学園同窓会はまだ発展段階、ご同慶のいたりです。そうそう、栄光の教壇では、碓井先生や梅津先生が4期生です。

そんな四期生が今年も同期会を開きました。卒業以来三十数回目です。2回目だったか、湘南白百合学園の同い年の同期会と共催、会場はあの逗子なぎさホテル、四期生は全員大学生でした。そして半世紀、21世紀に入ってから毎年開いています。毎年のプログラムはほぼワンパターン、黙祷と乾杯⇒飲食しながらの賑やかな歓談⇒数人の近況スピーチ⇒校歌斉唱です。おそらくいずれの《期》でも似たり寄ったり大同小異でしょう。とはいえ、節目の年では特別企画も加味してきました。例えば、養老孟司君の講演『栄光のカベ』を入れたり、長浦湾クルーズで田浦の母校跡を望ん

布したり、等々を愉しみました。もっとも、企画する毎年の同期会幹事陣は固定的でなく、地域別／出身小学校別／中一時のクラス別などで、これまで数年ずつ年ごとの持ち回りにしてきています。

さて、今年の同期会は出席31人。10月11日、今年もNYから駆付けた篠崎晃君が「トランプ予想」を加えながらの司会役、スピーチは在仙台の渡辺誠樹君の卒業以来初出席の弁、四期生が教わった先生として最後のお別れになった熊野先生を高嶋邦安君が追悼、などなどでした。斉唱は学園正門の表札を揮毫した深澤画伯が指揮。会場はホテル横浜ガーデン、二次会はちょっと歩いて中華街口のバー・ケーブルカー。同期生間の話は、先ずはやはり「健康(病気)」が多いですが、今年は学園がらみも多く、「新校舎(寄付)」「神父さんでない校長」「加藤陽子セミナー」などが洩れ聞こえていました。

四期同期会(現在109人)には年会費も会長も会則もありますが、会計としては任意拠金のFUNDを擁して、慶弔や同期会関連費用を賄ってきています。年を追って増える計報は四期連絡網で全員に流し、霊前に「四期生一同」の名で供花してきています。慶事としては、飯野雅彦神父の叙階金寿を祝ったりしました。

と、こんな風な四期の同期会報告ですが、ホームページの『同期会報告』や『同窓会名簿』を見て、上記10年置きほとんど《期》が、新卒の64期生はともかく、この数年まっ



(4期同期会 (2016年10月11日))

たり、夫人同伴可にしたり、四期ホームページ連載の60余名の『リレー随想』を冊子にしたり、思い出写真集DVDを配

たく同期会を開いていないことや、住所や勤務先情報が載っていない会員がすごく多いことに、かなりびっくりしました。

「それどころじゃない」のか「そんな時代じゃない」のか「同期／同窓の意味が違っちゃった」のか「やりたがる奴がいない」のか「《栄光らしさ》のせい」なのかは判りません。そんなことをひととき見つめてみるためにも、同期会のひとつも開いてみてはいかがでしょう。この報告が参考か刺激にでもなれば、《同窓老爺連》として、存外の喜びです。

7期恒例同窓会 報告

奥田斐規（7期）

平成28年の栄光学園7期生恒例の同窓会は、いつもの10月の第4土曜日(22日)に、横浜・中華街のいつもの広東料理の老舗で開催された。

建学後初めての卒業生が巣立った昭和28年に入学した我々7期生も、来年は喜寿を迎えようという年齢になり、幹事団の「帰宅の足元の安全への配慮」もあって、今回初めて、夕刻ではなく正午の開宴となった。そのせいかどうか、出席者は37人とどまった。平成23年の卒業50周年に69人が参集して以来、毎年少しずつ減ってきてはいたが、40人に満たなかったのは初めて。

参加される先生方の姿も残念ながら、年を追うごとに少なくなり、今回のご出席は我々が入学した年に学園に奉職された“同期”の稲田順一先生おひとりだった。

とはいえ、集まった面々は「髪が薄くなったり白くなったり」はあっても、揃って意気軒昂。盃を交わし合いながらの愉しく賑やかな談笑が会場に溢れた。

「土曜の午後でも仕事」で止む無く欠席、という未だ現役の猛者(モサ=体力・技能に勝っている人)も少なくない。そして、この1年間、天国のフォス校長に呼ばれたり、天狗さんの首取手に掴まれた者は「一人もなかった」(司会、荻原佳紀君の報告)というから、御同慶の至り。

現役組のひとりが、毎年きちんとした形で開催されるようになった7期同窓会の創始者で、それ故に恒久幹事長(?)の及能茂道君。いつもなら、彼の挨拶が開会の辞となるところが今回は、宴半ばに駆けつけてのひと言となった。

和気藹々の集いの時間は経つのが速い。会の始まりは例年と違って、終わりは例年通り。今もなお「みずほフィル」でヴァイオリンを弾いている、これまた猛者の金澤洋君の指揮で「Eiko High forever」を熱唱。1年後に「揃って元気で再会」と声掛け合っ、お開きとなった。

幹事団の一員、斎藤肇君によれば、7期は住所が判明、各種連絡が届いているはずの者が123人、住所不明が13人、物故者21人(28年10月現在)。ただ、同期会の諸活動はアラムナイのネットワーク「E-7」に登録している80人が中心になっている。

以下に、今年28年の活動(一部は予定)を列記しておく。

◇新年会(1月5日=卒業直後から続いていたサッカー一部の7期会が発展したもので、毎年同じ日、同じ内幸町のレストラン「シーボニア」で)◇ゴルフ会(9月8日の同窓会全体のコンペを含め3回、7期の会は5月16日と10月6日)◇みずほ銀行オーケストラ定期演奏会(1月23日と6月19日=前述の金澤君が演奏)◇観桜会(3月30日=斎藤君が主宰、千鳥ヶ淵を中心に)◇講演会(4月16日「中東一顧一望」=奥田斐規 / 11月12日=米澤潤一君「世界と日本の経済」)◇忘年会(12月1~2日=毎年同じ湯河原の瀟洒な旅館、貸切で)

12期同期会報告

窪田信之（12期）

平成28年10月29日(土)12期同期会が、卒業50周年の会から2年ぶりに、いつものホテルキャメロットジャパン(横浜)で62人が参加して開かれた。

早々と会場入りした者もあり、開宴15分前には9割以上が出席。待ちきれず、Welcomeドリンクが始まっていた。

定刻16時、佐藤孜代表幹事の発声で亡くなった同期生及び先生に黙祷を捧げ、佐竹信一幹事の乾杯の音頭で会が始まった。

6月に12期ゴルフ会(24人参加)もあり、また各所属クラブのOB会等で度々会っていても、やはり同期会の集いは格別で、話の輪が幾つも出来ていた。

前回より大分豪華な料理とお酒を頂いて落ち着いたところで、近況報告。

竹村公太郎君は仕事で河川を相手にしていたが、今では「河川からひも解く日本史」的な本を何冊も書いており、今回また新しい本を出したそうだ。

新郷康君は製薬会社営業一筋で、色々苦労も有ったようだが、台湾に赴任した時は、叔父など身内の縁もあり、楽しく仕事ができそう。台湾ならいつでも案内してくれると言っていた。

塩谷英策君は2年ほど前、血液の癌「悪性リンパ腫」と宣告され、抗がん剤等の治療で大変苦しんでいた。幸い本年はじめに寛解との診断が出て、急に元気が出てきたそう。今は、70の手習いでゴルフを元気に楽しんでいる。

高岡力君は三菱重工でのロケットや飛行機の商売の話、また今話題のMRJの話面白く話してくれた。

藤江正克君は日立の研究所勤務の後、母校早稲田に戻り教授として後進の指導をしているそうだ。

いたからである。1サンプル、30億塩基(実際は2倍体なの

以上の5名は、なんと代表幹事の佐藤眼科の患者。白内障他の治療に通った患者仲間である。(白内障は病気とは言わないか。) 皆さん百選練磨の強者で、スピーチが上手いのに驚いた。

次は仕事の都合で遅れて参加した、われらの桂勲君。現在、国立遺伝学研究所(静岡県三島市)の所長を務めており、2013年4月からは情報・システム研究機構理事も兼ねている。

以下桂君の話の要約。

ノーベル賞を受賞した大隅良典東京工大名誉教授とは、東大の助教授時代、同じ部屋で研究をしており、今回の彼の受賞で当時のことについてインタビューを受けた。また新たに生命科学部を立ち上げた東京農業大学の受験生向けパンフレットで生命科学の楽しさを話した。写真も載ったので恥ずかしかった。(笑)

2年前の同期会の時はスタップ細胞の件は外野で気楽なことを言っていたが、8月になったら理研の人が来て、「調査委員長をやってくれませんか」と頼まれた。残っていたスタップ細胞のサンプルを調べてもらったところ、全部ES細胞であることが解った。

マウス個体からES細胞を作るとき、そのつどDNAの塩基配列が変わることが今回の調査でわかった。したがって、個々のES細胞株には、それぞれ特徴的な塩基配列の違い



(スピーチする桂君)

で60億塩基)のマウスDNA塩基配列は1週間程度で調べられる。費用は1回約100万円かかるので、理研は、「スタップ細胞」と言われていた試料が既存のES細胞であることを証明するのに約2000万円もの金を使った。これを税金の無駄と非難する人もいたが、科学的にきちんと真実を証明することが重要と思う。

この結果、誰かがスタップ細胞作成の実験中にES細胞と入れ替えたことが推察できるが、誰がいつ、ES細胞と入れ替えたのかは証明出来なかった。目撃者なし、物的証拠なしで、夜中は誰でも研究室に出入りできる状態だったことが解ったからである。

調査の結果、調査委員会から



(記念写真@ホテルキャメロット)

がある。「スタップ細胞」と言われていたサンプルが既存のES細胞株とわかったのは、その特徴的な塩基配列をもって

1. スタップ細胞はなかった

2. 小保方さんの論文データは捏造があった
3. 細胞のすり替えの犯人は特定できなかったと報告をした。

桂勲君がスタッフ細胞騒動の顛末を身内向けに解りやすく話してくれて、会場は大いに盛り上がった。また、生命科学の進歩はすさまじく、とんでもないことまで解明されているのだとも感じた。

大盛況の同期会もメの時間が近付き、常任コーラスリーダーの深澤茂行、小田兵馬両君の先導で「Eiko High Forever」と「千里の波濤」をフルコーラス歌い、楽しかった12期同期会は終わった。

健康が気になる年頃の12期は、次回を楽しみに自重して大人しく解散となったが、まだまだ話し足りない23名は同ホテルの2次会場に移り、またまた盛り上がった。仕事の都合で2次会だけしか参加できなかった残間淳君も1次会分まで楽しんでくれたようだ。

26期OBゼミ報告

島崎裕之（26期）

平成28年5月～11月のOBゼミを26期が担当したが、無事講義に穴をあけることなく任務を果たし、いささかホッとしている。先のアラムナイでも報告したとおり、平成28年新年に28年ぶりに同期会総会を開催し、次年度がOBゼミの担当年次である事を報告したところ、即数名から『俺にやらせろ！』との熱い表明があった。

その後同期幹事団である下田陽、吉田直人、小林寿也等と話し合っって方向性を固め、『26期らしいOBゼミにしよう』『バラエティに富んだメンバーにしよう』『ワルだった奴にも登壇してもらおう』。こんな意見のもと、講師の選定に乗り出した。

同期会総会後は、大っぴらに募ることなく、一本釣りて一人一人「頼むぜ」と声をかけた。穴が空きそうになるコマもあったが、私自身が『自爆』することにより、『ごく平凡なサラリーマン』も登壇するという実績？もできたのか。

26期の講師陣は、学者・役人が各々数名、医者・弁護士1名ずつ、またサラリーマン3名、中小企業社長1名、芸術の道1名。名古屋・新潟から駆けつけていただいた講師もいて、誠に嬉しい限りである。

ゼミの案内ポスターが同窓会ホームページに掲載されているので参照願いたい。

<http://www.eikoalumni.org/OB-zemi.html>

11月末の任期を終えて早々の12月10日(土)に、横浜ホテルプラムにてOB会打上忘年会を開催した。12名(うち講師6名)というこじんまりした集いであつたがそれだけに濃い話、情報交換ができたと思う。

なお宴が始まる前、6月19日に帰天された熊野忠敬先生(体育科、中一時代D組主任)、11月22日に帰天された本尾篤先生(社会科、中一時代A組主任)の冥福を祈り、黙祷をささげる。お二人の恩師は我々が入学早々まだ子供の頃、非常に刺激を受けた先生であつた。

乾杯の後、航空宇宙工学の権威である李家賢一君、サラリーマン研究者でICカードの研究に専念する細田泰弘君、今後の長～い人生のリスクについて述べた小生、サントリーにてマーケティングを担当、最近早期退職した辻邦夫君、農村医療の道に入り、米と酒の美味しい魚沼から駆けつけてくれた中島拓君、警察庁幹部として日本の治安維持向上に体を張る三浦正充君と続いた。

講師以外も全員1人ずつ近況を語った。ブリヂストンの常務を務める市川良彦君はレースの道に入り、経営陣から何と言われようともレースをあきらめないという夢を熱くやんちゃに語っていた。さぞかし講師やりたかつただろう。すまん！

ス



市川君(左)

(26期OBゼミ打ち上げ (2016年12月10日))

キンヘッドにジーパン・トレーナーで登壇し、子供たちを絶

句させた脚本家・演出家の鈴木勝秀君は、インテルの試合観戦のため欠席。彼らしいところだが、次回は是非会ってみたい。

講義を受けた67期生他が社会で活躍するとき、是非我々の話を思い出していただきたいな。まあ母校にはこんな面白い先輩がいたってことだけでも。そんな後輩たちの将来が楽しみである我々初老集団である。

PS. 私事でもあるが、当日の出席者には、故加藤旭君の『光のみずうみ』をご購入いただいた。同窓生の絆は永遠。嬉しい限りである。

28期同期会報告 スポーツ大会挑戦を受ける

手塚正彦（28期）

平成28年10月22日（土）17時より、栄光学園28期生の同窓会が、例年どおり横浜ホテルプラムにて開催された。今年も約30名の同窓生が集まり、近況報告や思い出話に大いに花を咲かせた。今回も、28期が大変お世話になった金子好光元校長にご列席いただき、現在学園を事務統括のお立場でご支援されているなどご活躍されているお話を伺い、同窓生一同お元気なご様子に安心した次第である。年々、ご参加いただける先生の数が減っていることは寂しい限りであるが、今後とも可能な限りご参加いただけるよう、同窓生としても会の在り方を考えていきたい。

同窓会は、高橋英治同窓会委員と、高田 暁先生による、映像を使った「栄光学園の今」の紹介から始まった。新校舎建設の様子や、ダブルダッチあるいは将棋における栄光生

の大活躍を知り、皆大いに驚き頼もしく感じたものである。さらに、三菱東京UFJ銀行常務執行役員の小林 真君、News Socra代表土屋直也君（元日本経済新聞）、エミネクロス代表で日本のスポーツドクターの草分け的存在である辻 秀一君の個性派3名による近況報告は、大変興味深くまた楽しいものであった。

今回の目玉は、27期バスケットボール部の中村洋一郎先輩のサプライズ参加であった。自作の栄光ワイシャツにトレパン姿の先輩からは、例年27期が開催しているソフトボール大会を、平成29年は27期と28期の対抗戦、しかも他競技を含めたスポーツ大会として行なおうという挑戦状を突きつけられた。我々も売られた喧嘩は買うということで、対抗戦開催が決定、平成29年5月に執り行われることとなった。皆、若かりし頃の自分をイメージして、頑張りすぎて怪我をするのが少々心配だが、同窓生が集まる機会が増えたことは朗報である。

会の間中、高橋君、石川英一君の粋な計らいで、我々が在学中のひとつコマが常に会場で投影されていた。中間体操、体育祭、栄光際、修学旅行など、懐かしい場面に過去の記憶を新たにし、また、若々しいそれぞれの姿を懐かしく語り合うなど、楽しいひとときはあっという間に過ぎ、次回の幹事4名を選出して、19時に閉会となった。その後、参加者の多くが二次会に場を移し、遅くまで語り合った。幹事の、松浦君、金子君、清水君、そして、高橋君、石川君、高田先生には、会の企画実行への多大な貢献に感謝申し上げる。

29期同窓会 ～今年は4人の先生を迎えて～

前田真孝（29期）



(28期同期会 (10月22日))

中路喜之（29期）

私達としても1年の月日の経過の速さに驚くことしきりで、師走に突入し、恒例の同期で集まる会の季節となった。今年は、在学中にお世話になった先生方へご出席を何年かぶりにお願いした。ご出席いただいたのは、物理の稲田順一先生、数学の林恵津雄先生、国語の小宮市郎先生、化学の飯野習一先生の4名。先生にお目にかかるチャンスとばかり26名が参加し、合計30名（近年では最多）で栄光時代にタイムスリップした。



（稲田先生）

12月3日（土）の午後5時30分過ぎから3時間、横浜駅西口の居酒屋で。稲田先生による乾杯のご発声の後には、ほとんど全員があちらこちらに移動しながら、久しぶりの恩師や仲間との会話（名刺交換も！）で、あっという間に時間が過ぎた。

予定していた参加者全員の近況報告などは、会場の熱気に押され、幹事が気づいた頃には終了予定時刻となっていた。

それにしても、各自が栄光時代6年間の記憶が残っていることにビックリさせられた。それぞれに覚えていることはちがうものの、「そういえばさあ〜」「そのときに…」というので話が展開し、繋がったりするところが面白かった。先生方にも、各自の思い〜謝辞、授業の感想・後日談、今さらながらのリクエストそして今だからこそその懺悔など〜がぶつけられた。出席者全員、自分たちがとてもいい中高6年間を過ごせたのだと痛感したと思う。それぞれの世界で第一線にいる仲間、われわれの基礎を作ってくださった先生方…貴重な時間が過ごせたことに、出席者全員に感謝を申し上げる。あまりにも盛り上がりしてしまったので、残念なことに、全体写真を撮り損ねてしまった…（ちょっと言い訳）。

そして20名強の参加（1名はここから参加）で、会場を移



（小宮先生を囲んで）

しての二次会となった。50代半ば、そして今まで飲んでいたので…話して、飲んで…。1次会よりも話題はややディープだったり。今度は座ったままで、差しつ差されつ…「また近



（こちらは飯野先生）

うちに是非」「よいお年を！」という挨拶で散会した頃には10時を少し回っていた。

12月最初の土曜日で、何かと忙しい時期に、お集まりいただいた先生、同期の仲間へ感謝します。そして改めて、稲田先生をはじめ4名の先生にお礼を申し上げます。また、松本や今治から駆けつけてくれた仲間、少しでも…ということ顔を出してくれた仲間もいた。仕事などの理由で参加できなかった人、次回の参加を待っています。

今回は、多くの参加者があって直前での会場変更を余儀なくされるという、うれしい悲鳴をあげましたが、何とか無事に開催できて、恩師とともに全員で楽しい時間が共有できました。幹事として、本当にうれしかったです。年に1度だけでも、個別のグループではなく、（誰が来るか分からない）栄光時代を一緒に過ごした仲間と会うチャンス…ちゃんと企画しようと改めて思いました。来年も（晩秋／初冬）、同窓会を提供できるように企画します。こんな楽しい会ですので、多くの仲間へ出席してもらえるように、できるだけ早く決定をし、EACONなど、いろいろな媒体を活用して仲間へ声を掛け、参加の輪が少しでも広がるようにしたいと思います。



（林先生も）

宴会だけでなく、29期でやりたい企画（会社訪問／職場見学なんてどうでしょう？）、こういう開催方法（場所、時間など）なら参加しやすい、したくなる…など意見がありましたら、委員まで声をお寄せください。

また来年、元気に、お会いしましょう！

支部等の活動

栄光つくば会開催（2016年7月29日）

高橋広行（51期）

2016年7月29日（金）夜に、栄光学園卒の筑波大学医学部在学学生・卒業生が集まり、茨城県つくば市「Bar & cafe ルフラン」にて「栄光つくば会」を開催いたしました。

今回は栄光42期船山徹先生（整形外科）、43期池田達彦先生（乳腺甲状腺内分泌外科）、62期藤井悠君（医学部3年）と、51期高橋広行（膠原病リウマチ内科）が中心となって企画し、医学部生7名（1～6年）、卒業生（医師）7名にご



（栄光つくば会（2016年7月29日））

参加いただきました。

10年以上前にも栄光生の集まりがつくばで定期的で開催されていたようですが、久しぶりの開催となり、近況報告から、栄光時代の思い出話、地元ネタまで、様々な話題に花を咲かせ、有意義な時間となりました。次回は筑波大学を離れられた卒業生の先生方にも広く声をかけさせていただき、定期的開催していきたいと考えております。

晴れの国から ー第8回 岡山栄光会ー（2016年8月9日）

岡本卓郎（20期）

早川良一（21期）

岡山栄光会は、8月9日猛暑のなか、倉敷市内の倉敷ロイヤルアートホテルで、2016年2月23日の会合から、半年を経て夏の例会が開催された。当日の参加者は7名。

最年長の広島大学名誉教授の水田さん（13期）は、京都大学東洋史科に入学したのち、西欧中世哲学の研究者と

なられた。広島大学への通勤にも便利ということで、3年前に岡山県真備町に移住。真備町は、吉備真備で有名だが、先生は、地元で吉備真備についての講演会も開催。最近、神経痛で左半身にいたみを感じていたが、自然治癒したとのこと。黒川さん（14期）は、元三菱商事。長い商社マン生活で、転勤族として日本各地を回り、どこかでお子さんたちに定住の場をと探していたところ、縁あって倉敷に終の棲家を見つけた。晴れの天気が多く、台風も来ないという岡山県は住みやすいところとのこと。

伊藤（雅）さん（18期）は、倉敷中央病院の外科医。豪雪地帯の越後高田での病院勤務の後、京大の医局から、当地に転勤した。台湾の李登輝総統が心臓の手術をしたことでも知られる倉敷中央病院で主任部長として腕を奮っている。お酒はめっぽう強いとお見受けした。現在は、オペ等の現場から離れ、医院長補佐として病院経営に関与しているとのこと。なにぶん、この年になると共通の話題は健康問題、伊藤先生にはみんな遠慮なく、自分の健康相談をするので、にわか医療相談会の雰囲気。

岡本さん（20期）は、「マッサン」のニッカウキスキーから、現在自動車部品メーカーの地元グローバル企業「丸五ゴム」に転身。オーナーファミリーとして経営の中核を担っている。当ホテルのバーにもキープボトルがあり、バーテンとも顔見知り。

太田さん（31期）は、興銀出身で、ロングブラックパートナーズ（株）で、岡山県の地域ファンドを運営。毎月、岡山に通っており地元企業の再生と育成に関与している。さらに熊本でファンド設立、税理士法人の立ち上げなど、忙しいそうである。

菅昌さん（43期）は、国交省から岡山県警への出向中。県警のナンバー2として警察官の内部統制を担当。この度ベルギーにいる音楽家とご結婚とのこと。中高年の健康問題から、一転して華やかに結婚話に。参加者はめでたいことと大喜びで菅昌さんをからかっていた。

聞けば、早川（21期）の同期の近藤先生が担任だった時期もあるとか、歳月は、確実に人々を追い抜いていく。

今年はG7サミットの分科会として、倉敷で教育相サミットが5月に開催されたほか、JRのデスティネーションキャンペーンとしても取りあげられ、盛り上がりを見せる岡山県。近郊の栄光OBの方も是非、ご参加ください。お越しの節は、是非ご連絡ください。



(第8回 岡山栄光会 (2016年8月9日))

藤沢栄光会開催報告 (2016年9月10日)

牧野進一 (9期)

藤沢栄光会では、2016年9月10日に、藤沢駅からほど近いレストラン レ・シャンブルにて3年ぶりに総会を開いた。

当日は藤沢市在住の同窓生25名に加え、望月校長先生、近隣栄光会からは逗葉と鎌倉からの参加を頂いた。

始めにこの3年間に鬼籍に入られた2名の会員のために黙祷を捧げた。

総会では、牧野会長(9期)の挨拶に始まり、役員の変更、会計報告を行った。今後、より多くの藤沢栄光会の機会を持ち、メールシステムを有効に使い、連絡を活発化し、活動への参加の機会を拡大するツールにすることなどが論議された。この中で、藤沢栄光会の開催頻度を上げることも要望され、今後の課題として、新幹事で検討をすることになった。

総会に続いて、望月校長による「70周年記念事業など栄光学園の現状」と題して講演を頂いた。今までホームページや同

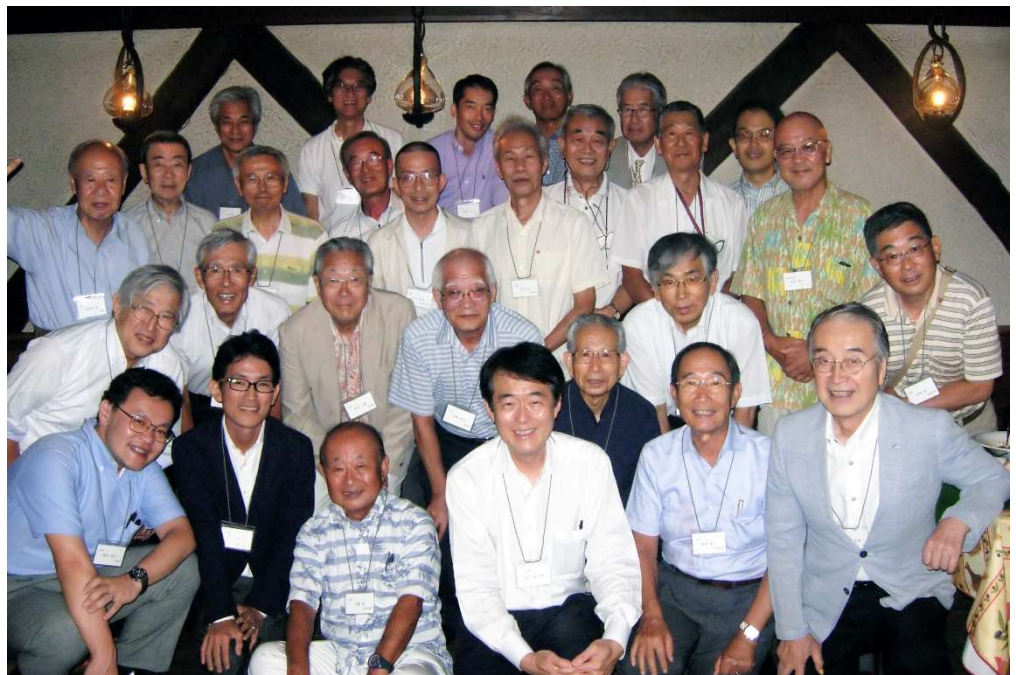
窓会誌などで触れられていたが、プロジェクトを使ったプレゼンテーションで、具体的な70周年記念事業である校舎建て替えの全貌とその進み具合などの内容が手に取るように把握できた。特に、校舎を総2階建てにし、空を広く見せることや、一階を鉄筋コンクリートにして、二階部分は国産檜を使ってエコロジーを主眼にした点などが優れていると感じたのは、私だけであっただろうか。

会計担当の20期篠原氏から、「栄光学園後援会」の内容が改めて説明された。この後援会は栄光学園父兄が中心で学園への支援するための会ではある。現在は70周年記念事業への支援を中心にしている。この事業への寄付で所得税の還付を受けることもできるので、藤沢栄光会メンバーからの協力を呼びかけられた。

続いて、出席者の中で最高齢の3期三神氏の乾杯より、懇親会が始まった。藤沢栄光会としては、今までのカトリック藤沢教会から初めて会場を街のレストランにした懇親会であったので、お互いの距離感が縮まり、暖かいおいしい料理に舌鼓を打ちながら、旧友とのよもやま話に花が咲いた。

近隣の逗葉栄光会から田中会長、鎌倉栄光会から村田事務局長もご出席いただき、ご挨拶を頂いた。田中会長から逗子市は「フェアトレード市」の宣言をされており、国際的な貢献もしている、との話があり、印象的であった。

最後に皆で、「千里の波濤」、「緑なす相模野」、それに「Eiko High Forever」を青春に帰って声高に歌い、再会を期して解散した。



(藤沢栄光会 (2016年9月10日))

山岳部OB会総会（2016年10月15日）

田中 泉（11期）

最近の卒業生諸君や、ましてや現役の生徒諸君からは、「えっ、栄光に山岳部があったの？」などと言われてしまいそうですが、確かにあったんです、「栄光」に輝く「山岳部」が。

学園創立3年後の1950年、天狗さん（故ハンス・シュルテ神父）によって創設され、指導者難で廃部を余儀なくされた1975年までの間。その25年の間、北・南アルプス、八ヶ岳、秩父、丹沢など、厳冬期を含む通算400回余の山行を、一度の事故もなく敢行、中学・高校ではトップレベルの実力を誇っていたんです。「国体には是非」と出場を懇願されたけれど、「山登りは競争ではない」と天狗さんが断ったという逸話も残っています。

そんな栄えある“天狗隊”ですが、天狗さんは2007年、93歳で天に召され、二代目部長だった金子省治先生も逝去。OB総員214名も、1期生が83歳、一番若手の24期生でも還暦近い58歳。皆、年取っちゃましたねえ〜。連綿と今なお続く他の運動部を、決してうらやむわけではありませんが、少々、息絶え絶えの天狗隊ではあります。

でも、そんな天狗隊が、ガツンと元気になるのが、年一回、秋に開催される「OB会総会」です。本校教員だった14期OBの大沢洋一郎さんが、長らく幹事役を務めてくれましたが、ここ10数年は各期持ち回りでの開催です。

今年10月15日、天狗さんの103回目の生誕日での開催となりました。会場は、横浜駅西口に程近い「ホテル・プラム」。参加者32名。

冒頭は無論、OB会3代目会長の菅田栄一さん（5期）の



（山岳部OB会（2016年10月15日））

ご挨拶。「楽しかった山行に思いをはせ、天狗さんに感謝しつつ、楽しい時間を過ごしましょう」。ちなみにOB会長は、初代が小笠原啓祐さん（1期）、2代目が星野芳久さん（3期）です。

次いで、乾杯の前触れに始まったのが、この日の最大のビックリ・ビック・イベントとなった星野前会長の天狗踊りでした。真っ赤な天狗の面を被り、頭はバンダナ、衣は作務衣。いきなり壇上に駆け上り（平場ですけど）、朗々と口上を述べた後、歳を感じさせない激しい踊りで、会場からはやんやの喝采です。

山行の打ち上げは通常、キャンプファイヤーとエネ大会（持ち寄ったお菓子を食べる会）と決まっていますが、そのフィナーレを飾るのが、天狗さんのいわゆる「天狗踊り」だったのです。浴びる火の粉のものともせず、奇声を発しながらの激しい踊りに、部員たちは皆、ワイワイ、ギャーギャー、苦しかった合宿の疲れも吹っ飛んだものでした。

あの時代一。田浦校舎の裏山の10数mの岸壁をザイル一本で降りる山岳部員。その格好良さにあこがれて入部した部員も多かった（実は私も）。米軍との境界の金網沿いの尾根筋を鷹取山までひとつ走り。ごっつい岩肌を、今でいうフリークライムで登りこしたこともあったなあ。そういえば、ローハイドの若頭・ロディー役のクリント・イーストウッドも細身でシニカルな若者だった。

「山の男の十の掟」を声高に唱え、「山岳部歌」、「涸沢の朝夕」を熱唱すれば、皆それぞれに昔返りの3時間。栄光山岳部は、今も、これからも、ずっと、ずっと、健在。では、では、「また、来年」。互いに熱く約してのお開きとなった。



（星野前会長の天狗踊り）

横須賀OB会報告（2016年10月22日）

上原 真（31期）

平成28年10月22日土曜日午後5時より栄光学園横須賀OB会総会が「鳥の巣」横須賀店にて開催されました。窪田信之氏（12期）の司会進行で、徳永良輔氏（1期）の新校舎建設状況説明、引き続きの支援のお願い、乾杯、会長である上原真（31期）の挨拶で宴会が始まりました。

一時間ほど飲食した後、参加者（文末に参加者を掲載）全員から近況の話がありました。一人ひとりの話の内容が濃く、予定の二時間は思いの外はやく過ぎました。集合写真を撮影するだけで、校歌などを合唱する時間がなく残念でしたが、賑やかに総勢15名の会はお開きになりました。



（横須賀OB会総会（2016年10月22日））

参加者氏名（敬称略）：1期徳永良輔、2期名倉忠昭、3期丸山晁巨、9期永野進、10期岸洋一、12期窪田信之、13期太田良浩之、佐藤純一、谷繁信、15期角尾二三男、16期波多康治、22期加藤元章、高宮光、26期呉東正彦、31期上原真

栄光サッカー部OB会（2016年10月30日）

伝統ある第24回JJHAF4校サッカー対抗戦で優勝

高橋正明（19期）

JJHAFは普段あまり耳にしない単語ですが、実は「日本イエズス会校同窓会連絡会」の略称です。文字通り兄弟校の同窓会連絡会として事務方会議が毎年開催されていますが、遡ること四半世紀になりますが、当時の栄光同窓会会長沼田会長の号令により栄光学園、六甲学院、広島学院、上智福岡（旧泰星）の4校交流促進のためにまずサッカー部が率先して交流試合に取り組みという至上命令が下され、

以来、開催会場を持ち回りにしながら毎年秋に対抗戦を開催しています。2016年度は、栄光が大会幹事校を仰せつかり第24回横浜大会を開催し、2008年以来久しぶりに「優勝」を飾ることができました。

JJHAF4校サッカー対抗戦は、およそ毎年次のようなプログラムで構成されています。

■前夜祭 2016年10月29日（土）18:00～20:00

六甲、広島、福岡各校とも関東在住者を含めて10～15名ほど集まり全体で約70名の大会となり盛況でした。

会場は、中華街のお店を貸切り、旧知の友との再開を祝しながらの舌戦も交えて対抗戦の前哨戦は大いに盛り上がりました。

今年は、栄光サッカー部OB会が幹事校として運営に当たったため、開催校関係者として校長、指導部長、教務部長らの先生方にもご出席いただき、また同窓会会長、副会長にもご列席いただきサッカーによる交流戦が毎年いかに脈々と繰り返されているかをご覧ください。

■交流戦 2016年10月30日（日）9:00～17:00

栄光の校内があいにく校舎立て替え工事中という事もあり、グラウンドはサッカー部OBが役員というご縁で、二宮にある「あいおいニッセイ同和損保 湘南東保園」の極上天然芝のグラウンドを借用しました。

六甲では校舎前に素晴らしい人工芝グラウンドが完成していて六甲で開催される度に羨ましく感じますが、栄光も校舎立て替え工事が終了したらこのような素晴らしいグラウンドを新校舎と共に一体化した校内環境整備計画に是非とも盛り込んでいただきたいものです。広島や福岡も気持ちは同じとのこと。今後が楽しみです。

前夜祭の翌朝、各チームとも元気にグラウンドに集合し約100名規模の4チームトーナメント大会となりました。

本大会では、伝統的な独自の得点ルールを採用しており、通常のゴールは1点ですが、得点者が50代だと3点、60代



（優勝した栄光OBチームの雄姿）



(JJHAF4校サッカー対抗戦 (2016年10月30日))

だと4点、70代以上は5点勘定となります。この独自ルールの適用により各チームとも一喜一憂しますが、20代から70代までのOBが一体となって交流戦とは言え真剣勝負で臨みます。

大会開催の挨拶に始まり、初戦、栄光が常勝広島に10:5で快勝。次の六甲・福岡戦は、若さの福岡が勝ち2:0で勝ちあがり、例年に無い大波乱の展開となりました。

決勝は栄光が頑張り1:0で福岡を押さえて見事優勝を果たし有終の美を飾りました。

■表彰式・懇親会

試合後、グラウンド併設の研修施設でお風呂を頂き、さっぱりしたところで、70名を超える勇士が集い乾杯！互いの健闘を讃えながら和気あいあいと表彰式を行いました。

研修所の食堂でケータリングによる大宴会となり、遠方からの参加者も帰りの新幹線を気にしながらも、また来年も開催校の六甲での再開を誓い、無事終了しました。

昨年からはイエズス会の経営方針が変わりましたが、ともかく兄弟校が毎年何処かに集いお互いの技を競い合いながら交流を深めることを体で体験する素晴らしい機会ですので、他の部でも是非このような交流に挑戦していただきたいと思います。

2016年度バドミントン部OB会 (2016年11月26日)

窪田拓也 (58期)

11月26日(土)に、毎年恒例のバドミントン部OB会が横浜中華街「萬珍樓」で開催されました。今回は5期から58期までの23名が集まりました。

まずは島崎裕之同窓会活動サポート部長(26期)の音頭により総会が開かれ、水島一郎氏(28期)から樋口祐介氏(57期)への事務局長の交代が正式に承認されました。

そして、昨年のOB会后に亡くなった島田厚夫元会長(4期)と脳腫瘍により亡くなった現役部員の加藤旭くん(66期)のお二人に対して黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りしました。加藤くんの2作目のアルバムである「光のみずうみ」ですが、ご子息が同級生である島崎氏より多くの同窓会会員の方々にご購入いただきました。

乾杯の後は、絶品の中華料理に舌鼓を打ちながら、久々に再会した同期や先輩方との会話に花を咲かせました。会が中盤にさしかかったところで、近況報告が始まりました。58期から順番に、自己紹介や部員時代の思い出など様々なお話を頂きました。また、この会のために(?)日本各地

のみならず海外からお越しになった方もいらっしゃいました。

樋口氏からは、今後バドミントンに関して執筆予定であることが発表されました。出版されることを心から楽しみにしています。

今回はやや人



(バドミントン部OB会 (2016年11月26日))

数が少なく、例年はテーブルを4卓使用しているところ、3卓で収まる規模となりました。その分、幅広い世代の方と交流することができ、濃密で貴重な時間を過ごすことができました。ただ、やはり寂しい感じもするのが正直なところです。宴の終わりには、来年は各人が同期等を一人ずつ誘って連れてくることを誓い合い、恒例の写真撮影をして締めくくられました。

私個人としては3回目の参加となりましたが、現役時代に同じコートで汗を流した仲間との絆を再確認でき、また全く知らなかった方々との絆を新たに構築することができるかけがえのない場であると感じました。

最後に、バドミントン部OB会の益々の発展を祈念するとともに、以上をご報告とさせていただきます。

茅ヶ崎栄光同窓会新年会報告（2017年1月22日）

金子 和（27期）

1月22日（日）、茅ヶ崎駅南口の『里芋』にて、茅ヶ崎栄光同窓会恒例の新年会が開催された。今回は菱沼徹臣同窓会長（17期）にもご出席いただき、計OB9名が集まった。

山口洋一郎会長（13期）の挨拶、酒井伸雄氏（2期）の乾杯に続き、菱沼会長より新校舎の竣工披露、70周年記念コンサート&パーティー開催の案内、そして更なる寄付について、50周年の『複合校舎（山口会長設計）』の時は栄光会（現役栄光生の父兄）からの寄付が非常に多かったが、今は時代背景も異なりその部分が少なく、竣工後も受け付けるのでよろしくお願ひしたいとの要請をいただいた。

山本明徳氏（7期）から「今年栄光は創立70周年、我々7期は今年喜寿（77歳）、7づくしだ。」と感慨深く述べられた。

また、茅ヶ崎と言えば桑田佳祐さんの話題になり、同学年（22期）の伊藤紀一郎氏、松岡豊人氏より、以前出席されていた外池仁氏は小学校の同級生だったとの話題で盛り上がった。

『仲間を増やそう』とのモットーを掲げ活動している当支部だが、支部活動を活性化させる責任者である島崎活動サポート部長より声をかけられ、今回初参加の久芳（クハ）靖氏（30期）は、学生時代には「金子先輩とも大学時代からカトリック関連の交流があった」と懐かしそうに語った。ちなみに島崎氏は昨夏より札幌に単身赴任されており、『北海道栄光会』の8年ぶりの総会に向け準備中とのこと。

菱沼会長からは「母校の地元では、横須賀・逗葉・鎌倉・藤沢と支部が並んでいる。ジョイントしたらどうだろう」との提案があった。過去には『地引網』では近隣の支部メンバーの

協力を仰いだ実績もある。今回は会長の地元である『逗葉栄光同窓会』総会懇親会に、複数人数出席し、交流を図ることとなった。

当支部では引き続き仲間を拡大する方針。茅ヶ崎にご在住のみならず、ゆかりのある同窓生は、

事務局（27期：金子和）

E-mail: eiko.chigasaki@edu.que.jp

または、EACON『茅ヶ崎栄光会グループ』まで



（茅ヶ崎栄光同窓会（2017年1月22日））

第15回 逗葉栄光同窓会（2017年2月19日）

松岡 晃（14期）

平成29年2月19日（日）葉山町の中国料理「海狼」にて3年ぶりに同窓会が開催された。

はじめに総会が執り行われ、司会の山田宏幸氏（30期）により開会、会長の田中尚武氏（10期）の挨拶・小菅純氏（18期）による会計報告・事務局松岡から幹事の変更が報告された。

引き続き栄光学園教諭の斉藤裕之先生から学園の現況をお話いただき、栄光学園同窓会会長の菱沼徹臣氏（17期）より70周年記念事業の概要と寄付の現況報告とさらなる寄付のお願ひがあった。

赤羽宏之氏（3期）による乾杯で宴会に移行し、衆議院議員浅尾慶一郎氏（31期）によるトランプ大統領や北朝鮮の話題を興味深く伺った。

遅れて参加された徳永良輔氏（1期）による二度目の乾杯のあと、県立近代美術館の水沢勉氏（19期）の講演があった。その後来賓の藤澤栄光会・牧野文勝氏（11期）、鎌倉栄光会・青柳雄助氏（16期）、横須賀栄光OB会・上原忍氏（31期）、茅ヶ崎栄光会・島崎裕之氏（26期）、金子和氏（27期）の挨拶があった。

最後に脇本尚武氏（7期）のキーボード伴奏でEiko-high-Foreverと新旧校歌を歌い、伊勢知明生氏（36期）の



(逗葉栄光同窓会 (2017年2月19日))

閉会の辞でお開きとなった。

かつてはこの地域に住まれ、毎回この会に参加していただいた谷口先生・金子先生・阿部先生・丸山先生など皆さんが故人となられ、荻野先生も体調を崩されておられ、今回の参加者は恩師1名・来賓5名・会員29名と会長の奥様で総勢36名でした。

会場を快く提供していただいた、中国料理「海狼」は、2014年に急逝された山本敏弘氏(22期)のご実家でした。

歴史・文学散歩

北原白秋ゆかりの地を巡る

実施日:2016年9月27日

小金沢英夫 (6期)

前2回欠席、久しぶりの参加である。

金子先生の跡を継いだ三春さんの案内書はきめ細かく懇切丁寧、自作の地図も添えられている。加えて高性能携帯拡声器を装備し、よどみなく歯切れの良い語り口で参加者の好奇心を掻き立てた。

参加者16名、我々6期が最長老、京急三崎口を10時過ぎに出発、路線バスで城ヶ島へ、帰りは17時近く、歩行距離は16000歩を越えていた。

散策は、午前、白秋記念館見学に始まる城ヶ島ハイキン

グ、午後、三崎の「白秋文学コース」巡りである。

白秋記念館を後に、駐車場の脇からなだらかな山道に登るとウミウ生息地展望台に出るが、季節外れか1羽も見えなかった。

さらに進むと「馬の背洞門」。幹事は安全上、上から眺めることだけを薦めたが、ダメと言われると見たくなる野次馬仲間引き摺られ、足元覚えない岩路を下り磯に降り立つと、我々と同じ背格好の数人のパーティーが岸壁の断層を指し示し、何やら議論中。城ヶ島は「日本の地質百選」にも選ばれ、島の至るところに地質学的に貴重な地層が露出している地史研究の宝庫でもある。

昼食後、島からバスで三崎に向う。「城ヶ島大橋」を渡り下車、階段を伝って橋の袂に下りるとそこが「向ヶ崎公園」、本日のハイライト、白秋旧宅跡である。

「春の鳥な鳴き鳴きそあかあかと戸の面の草に日の入る夕」、歌集『桐の花』の冒頭に収められた一句、教壇をゆつたりと歩く端正な恩師の姿が蘇って来る。ここはまた、教科書にはなかった「桐の花事件」の舞台でもある。

白秋は後年、文芸誌『新潮』に記している。「俊子精神的に離縁せられ、その夫および情夫より侮辱せらるるや、見るに忍びず救わんとしかえって小人の陥穽に陥り、訴えられて未決に入る。」、俊子の夫、松平長平から姦通罪で訴えられたのである。幸いに、弟鉄男氏の奔走により示談が成立、起訴は免れたものの世間の風当たりは強く、大正2年5月、新妻俊子を伴い家族と共に、三浦に身を潜める。

この苦境を救ったのが「城ヶ島の雨」、島村抱月が芸術座

第一回音楽会のために作詞を依頼、自信喪失の白秋が詞を書き上げたのは発表会の3日前、作曲は新進気鋭の梁田貞、1日で曲を付け、そして自ら美しいテノールを披露した。当時ラジオ放送はなかったが、奥田良三のレコーディングによって瞬く間に全国に広まった。

三崎の入組んだ地形は現在漁港として整備され、倉庫や市場で

賑わうが、遠く鎌倉時代には幕府の行楽の地として、頼朝が一族郎党を率い宴を催した風光明媚な地である。

『吾妻鏡』に次の記録がある。建久五年(1195年)閏八月大、一日、戊午、快晴。將軍家三浦に渡御。(中略)乗燭(ヘイショク)の程、御臺所並びに若君・姫君等渡御。(中略)醇酒興を催し、珍膳美を加ふ。この所の眺望、白浪を鋪(シ)き、青山に倚る。およそ地形の勝絶、興遊の便を得るものか。』(『全譯吾妻鏡』人物往来社)

頼朝は三崎に椿、桜、桃の三御所を設け、その跡地が現在の大椿寺、本瑞寺、見桃寺であると伝えられている。

椿の御所「大椿寺」は、頼朝寵愛の側室が頼朝の死後髪を下ろし、菩提を弔った寺と言う。

「寂しさに秋声が書読みさして庭に出でたり白菊の花」、桃の御所「見桃寺」にある白秋直筆の歌碑である。大正2年10月、白秋が俊子を伴い家族の去った向ヶ崎から境内の片隅に仮寓した地でもある。

「海南神社」は創建866年、頼朝挙兵に当たり三浦氏はこの神社で戦の帰趨を占ったと言われ、境内に頼朝寄進と伝わる巨大な公孫樹が聳え立つ。

散策の最後は「歌舞島」。頼朝の宴はここで催されたという伝えがあり、富士を背景にした相模灘に浮かぶ江ノ島、湘南の夕景は今も素晴らしい。

相模灘に沈む夕日を背に現地解散、常連組の何人かは横須賀中央で途中下車、慰労の杯を交わし、次回の再会を約す。



(城ヶ島にて)

古東海道神奈川宿、歴史の道歩く

日時：2016年11月19日

前山茂雄(13期)

今回の歴史文学散歩は旧東海道で江戸から3番目にあたる神奈川宿の散策である。当日の天気予報は雨で開催が危ぶまれたが、朝方に降っていた雨も上がり、集合時間の10時には曇り空になっていた。雨模様のせいかもしれないが、常連を中心に3期から21期の10名がそろった。

集合した京急神奈川新町駅近くで、宿場東側の江戸方見附跡とオランダ領事館跡(長延寺跡)から神社仏閣を中心に辿り、青木橋を渡って西側の上台橋までの工程であった。神奈川宿の道筋は横浜市の魅力ある道路づくり事業として1993年頃までに整備されたそうで、道路はレンガブロックが敷かれ、道順も分り易かった。

神奈川宿は神奈川湊が日米修好通商条約で決まった開港五港の一つであったことから外国の公館がお寺に置かれていた。今回のコースではオランダ・イギリス・フランス・アメリカ等の公使館・領事館跡があった。また、浦島太郎ゆかりのものが残っている浦島寺(慶運寺)、山門を白ペンキで塗ったのが本邦塗装の始まりのため全国塗装業者合同慰霊碑がある本覚寺、大天狗の伝説で知られる大綱金刀比羅神



(歴史・文学散歩 (2016年11月19日))

社などちょっと趣きの変った社寺も見られた。

よく見る神奈川宿の絵図では海岸沿いの旅籠などが描かれていて、今の風景とは異なった印象である。街道は江戸時代には海岸沿いだったが、現在は埋め立てで海岸線が遠くなっているとのこと。特に横浜駅付近は江戸時代には入り江だったが、近場の山を切り崩して埋め立てて作られた土地とのこと。内陸部であっても断崖の痕跡など当時の面影も見られた。

途中お楽しみの昼食は付近をよくご存じの参加者の案内で、旧東海道を少し外れて横浜市卸売市場内の食堂に寄り道。知る人ぞ知る処らしく、ちょうど昼食時で各店の前には行列が出来ていた。海鮮からラーメンまでなんでもお好みで食べられた。

今回の歴史文学散歩では、幸運にも雨の天気予報は外れ、道中全く降らなかった。また、この歴史文学散歩は2003年に故金子省治先生が始めて以来50回以上にわたって行われているが、一度も雨天中止はないとのこと。参加者の日常の行いが良いのか、案内人が晴れ男と呼ばれているためなのだろうか。この幸運が続くことを望む。

本号の別項でも紹介しているが、歴史文学散歩は来年度も4回の実施を予定している。手頃な健康作りにもなるので、皆様もご参加ください。

参考までに、今回の順路は以下の通りであった。

神奈川新町駅(集合)～オランダ領事館跡(長延寺跡)～良泉寺～笠程稲荷～能満寺・神明神宮～金蔵院～熊野神社～高札場～成仏寺～慶運寺～(横浜市中心卸売市場(昼食))～神奈川宿本陣跡～イギリス領事館跡(浄瀧寺)～神奈川の大井戸～ヘボン博士診療所跡(宗興寺)～権現山～洲崎大神～フランス公使館跡(普門寺)～アメリカ領事館跡(本覚寺)～望欣台～一里塚跡～大綱金刀比羅神社～台の坂 茶屋～神奈川台の関門跡～上台橋(解散)

2017年度 歴史文学散歩

事業部

故金子省治先生のご指導のもと、同窓会事業部の行事として続けている歴史文学散歩の予定が、前同窓会事務局長三春勝正様(6期)によって企画されました。平日が中心となりますので常連の方も多いのですが、ぜひとも同窓生そのご家族の新たなご参加をお待ちしております。参加予定の方は事前に同窓会事務室までご連絡いただければ幸いです。

2017年度 歴史文学散歩予定コース

三春勝正（6期）

生田緑地日本民家園とバラ園他見学

実施予定日：5月24日(水曜日) 雨天中止
集合：小田急小田原線「向ヶ丘遊園駅」南口 10時
解散：生田緑地 15時ごろ
距離：約7.5km(回る場所によりことなる)
持物：飲み物、雨具 昼食：弁当又は外食
その他：入場料65歳以上300円（プラネタリウムは別途200円）

コース： 向ヶ丘遊園駅～生田緑地日本民家園～かわさき宙(そら)と緑の科学館(プラネタリウムは有料)～川崎市岡本太郎美術館～、川崎市伝統工芸館又は藤子・F・不二雄ミュージアム～生田緑地バラ園など。以上より希望により選択。(ただし日本民家園は全員で見学)～向ヶ丘遊園駅

生田緑地は、昭和16(1941)年に都市計画が決定された都市計画緑地で、首都圏を代表する緑豊かな自然環境を有しています。古民家園は江戸時代の東日本の代表的な古民家を移築した野外博物館です(文化財建造物25件)。囲炉裏の火を入れての床上公開、園内ガイド、民具製作実演、昔話などさまざまな楽しみ方ができる場となっています。この時期バラ園の花が見ごろではないでしょうか。

学園都市花とせせらぎの道を歩く

実施予定日：9月26日(火曜日) 雨天中止
集合：湘南台駅西口(小田急線・相鉄線・ブルーライン) 10時
解散：遠藤 15時ごろ
距離：約8km
持物：飲み物、雨具 昼食：外食(学生食堂)

コース： 湘南台駅西口～バス停慶応大学～遠藤笹窪谷～慶應義塾大学藤沢キャンパス・湘南藤沢中高～小出川の彼岸花～腰掛神社～茅ヶ崎里山公園～寶泉寺～御嶽神社～遠藤由来の碑～文覚上人供養碑～遠藤バス停

遠藤は藤沢市の北西部に位置し、相模野台地の南端部を占めています。ここに1990年に、慶應義塾大学が湘南藤沢キャンパスとして「総合政策学部」「環境情報学部」を設置したのが始まりで、古い町が近代的な学園都市として発展してきました。大学キャンパスの東側から南側に、小出川という小さな川が流れています。川岸が「花とせせらぎの道」として整備され、春はアジサイ、秋は彼岸花が群生します。この

時期彼岸花が満開でしょう。

等々力溪谷と史跡巡り

実施予定日：11月18日(土曜日) 雨天中止
集合：等々力駅(東急大井町線)10時
解散：15時30分ごろ
距離：約7.5km
持物：飲み物、雨具 昼食：弁当

コース： 等々力駅～等々力不動～善養密寺～六祖神社～大塚古墳～上野毛稲荷塚古墳～上野毛自然公園～五島美術館～法徳寺～瀬田貝塚跡～行善寺～玉川大師～二子玉川駅

等々力溪谷から国分寺崖線の高台を歩きます。等々力溪谷は都会にまだこんなところが残っていたのかと驚かれるほど、自然豊かな景観を残しています。高台には邸宅が多くあり、自然の樹木も良く保存されています。高台になっているので、古くから人が住み着いていたのか、古墳が多いのも目につきます。

東戸塚の古東海道と史跡を訪ねて

実施予定日：2018年3月30日(金曜日) 雨天中止
集合：JR東戸塚駅(東口)10時
解散：15時30分ごろ
距離：約8km
持物：飲み物、雨具 昼食：弁当

コース： JR東戸塚駅～白旗神社～新見家墓地～武相国境の道～境木地蔵～投込塚碑～萩原代官屋敷・道場跡～焼餅坂～品濃一里塚～果樹の里～東福寺～光庵寺～白旗神社～海道橋の楠～川上川桜並木～坂下バス停

何年か前、金子先生の時代に保土ヶ谷宿から戸塚宿までを歩いたことがあると思いますが、今回は東戸塚を中心に歩いて、境木に出てから旧古道に沿って下ります。

このあたりは徳川家康との厚い信頼関係を気付いていた旗本新見氏が、天正18年(1590)に新見正勝の時に相州品濃・山田を領地として家康より賜ったところです。

幕末にはいり、ペリー来航の項には新見正興が領主となっていました。正興は外国奉行に任じられ、1860年日本最初の遣米使節団の首席代表として、小栗肥後守忠順らとともに、日米修好通商条約の批准の為の渡米を果たしました。同時に咸臨丸で渡米した勝海舟などに比べると、あまり目立たない存在ですが、実際には重要な使命を果たした人物のようです。今回はそんな新見氏に関わる史跡などを訪ねて歩きます。

● 訃報(2016年10月1日以降判明分)

先生

村田良夫先生(物理)2016年11月13日

本尾 篤先生(社会)2016年11月22日

薄田 昇神父(社会)2017年1月14日

小俣照信先生(手話)2017年2月14日

卒業生

合田(旧姓安藤)信弘氏	(18期)	2015年
中村光世氏	(13期)	2016年2月5日
赤倉啓之氏	(4期)	2016年3月9日
小山慎治氏	(3期)	2016年10月3日
荒井稔氏	(3期)	2016年10月3日
藤本清貴氏	(23期)	2016年10月5日
松嶋駿二郎氏	(8期)	2016年11月5日
山口 悟氏	(2期)	2016年11月6日
久我素彦氏	(3期)	2016年11月13日
大前芳蔵氏	(9期)	2016年11月13日
小上馬隆治氏	(2期)	2016年11月16日
田村 実氏	(17期)	2016年11月22日
岡村堯雄氏	(1期)	2016年11月26日
笠神 潔氏	(7期)	2016年12月6日
宮澤克秀氏	(11期)	2016年12月10日
桑 喜代治氏	(3期)	2016年12月25日
久保正義氏	(5期)	2016年12月27日
鈴木喜一氏	(7期)	2017年1月6日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

● 次号(第88号):2017年10月発行予定。

● 投稿歓迎

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度+写真1枚。同窓会事務局宛てメールまたは封書でお送りください。

メールアドレス: admin@eikoalumni.org

住所:(本号第1頁にあります)。

● お知らせ

栄光学園同窓会では事業部の記事にあります通り、本年6月4日に栄光OBフォーラム。8月6日にEIKO 70th Anniversary FESTAとして、記念コンサートとパーティーを予定しております。これらのイベントにスタッフとして参加いただける方、またAnniversary FESTAの実行委員として活動していただける方を以下の通り募集しております。

□栄光OBフォーラムの当日スタッフ

活動内容:受付、誘導

活動日時:2017年6月4日(日) 10:00~16:00(予定)

活動場所:栄光学園内

応募期限:5月27日

□EIKO 70th Anniversary FESTA実行委員

活動内容:広報係、総務係、記録係、記念コンサート・

ステージマネージャー補佐、パーティー企画、パーティー進行、他

活動日時:2017年6月3日(土)10:00顔合わせ

以降、8月6日(日)当日まで適宜打合わせ

活動場所:栄光学園、大船・横浜近辺 および当日は

みなとみらいホール、横浜ベイホテル東急

応募締切:5月27日

□栄光創立70周年記念コンサート当日スタッフ

活動内容:受付、誘導

活動日時:2017年8月6日(日)11:00~16:30(予定)

活動場所:みなとみらいホール

応募締切:7月29日

□栄光創立70周年記念パーティー当日スタッフ

活動内容:受付、当日券販売、誘導

活動日時:2017年8月6日(日)15:00~19:30(予定)

活動場所:横浜ベイホテル東急

応募締切:7月29日

応募方法等、詳しくは同窓会ホームページの「同窓会イベントのお手伝いさん募集」をご覧ください。

● 編集後記

会報の編集を行っている時点では、新校舎のお披露目前なのだが、すでに外観を拝見して素晴らしい校舎が完成したものだと、我がことのように喜んでしまう。よく考えると自分がこの校舎で学ぶことはおろか、教室に立ち入る機会すらあまりないのだが。

実は編集担当が勤務する会社の同じ部署にお子さんが栄光に入学した方がお二人いることが最近判明した。うかがってみると、新校舎の建設に期待するところが大きく、お子さんの栄光学園受験を応援していたとのこと。すでに新校舎の威力は発揮されつつあるようだ。ここで学ぶ生徒たちが新校舎にどのような感想を持つのか早く知りたいものだ。(広報部高橋記)